

令和2年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

推進委員会当日 持参してください

- 基本目標 1 誰もが利用しやすい地域福祉の仕組みづくり
- 施策の方向性 1 誰もが利用しやすい体制・情報提供の充実
- 今後の取組 (1) 相談窓口・相談体制の充実
- ① 行政
- ▶ 総合的な相談窓口のあり方を検討し、総合窓口の設置を目指します。
 - ▶ 公設公民館を活用した、相談窓口の設置を検討します。
 - ▶ 相談体制を総合的に検討・調整する会議の設置を検討します。
 - ▶ わかりやすい相談窓口の設置と、周知に努めます。

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
企画部	◆新庁舎建設後における相談窓口の場所 ◆総合窓口の設置を含めた組織機構の見直し	◆実績なし	◆新庁舎建設基本設計・実施設計は未実施のため、総合窓口、相談窓口の検討を行っていない。	◆組織機構の見直しに併せ、総合窓口の設置を含めた検討を行う。	D	◆未実施のため	継続
総務部	◆窓口サービス向上委員会（連絡会、ワーキンググループ）の開催	◆開催なし	◆平成30年度に実施したアンケートの結果から職員の窓口対応等ソフト面については一定の評価を得られた一方、庁舎の設備的なハード面に関する要望への対応、サービスの向上が課題である。	◆現状下での更なるサービス向上策の検討 ◆新庁舎整備計画との連動	D	◆実績なし	改善
保健福祉部 (社会福祉課)	◆総合的な相談窓口のあり方の検討 ◆相談体制を総合的に検討・調整する会議の設置	◆福祉分野の庁内検討会議を設置し、総合的な相談窓口のあり方について検討を行った。 ◆福祉分野の庁内検討会議において、各相談支援機関の連携や相談支援体制について検討を行った。	◆各相談支援機関との連携による福祉総合相談窓口を設置に向けて検討を行うことができた。	◆福祉分野の連携だけでなく、分野を超えて対応するために他分野と連携する。	A	◆福祉総合相談窓口の設置に向けて具体的な検討を行うことができた。庁内連携のための施策の検討を行うことができた。	拡充

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部 (高齢福祉課)	◆市内8か所に設置した地域包括支援センターにより、高齢者の多様な相談に応じ、相談内容により、関係機関と連携する。	◆高齢者の総合相談窓口として市内8か所の地域包括支援センターが相談業務を行うとともに、ホームページ、リーフレット等により相談窓口の周知を行った。	◆高齢者の総合相談窓口として、高齢者の生活全般の悩み、相談に対して支援することができた。	◆相談窓口として地域包括支援センターを周知しながら、相談業務を継続する。	A	◆適宜、地域包括支援センターによる相談支援が行われているため。	継続
保健福祉部 (健康増進課)	◆公設公民館を利用した、相談窓口を設置し、周知する。 ◆わかりやすい相談窓口を設置し、周知する。 ◆総合的な相談窓口のあり方を検討し、総合窓口の設置を目指す。	◆相談の内容に応じた相談窓口の設置。(健康相談、食生活相談、電話相談) ◆集団検診受診者には、個別に相談日を通知した。 ◆健康相談会 H30…75回 690人内自発149人 R1…62回 671人内自発121人 R2…34回 193人内自発69人 ◆食生活相談 H30…75回 76人 R1…65回 53人 R2…28回 14人 ◆相談会場 H30…各保健センター、7公設公民館 R1…同数 R2…各保健センター	◆コロナ渦の中で感染拡大を最優先に考慮しながら、生活習慣改善の必要な人が、安心して相談会に来所できるよう、密を避け開催した。	◆電話対応の措置を講じたが、非来所形式で相談できる体制も検討していく必要がある。	B	◆社会の事情等に合わせた柔軟な対応が必要である。予測不能な状況化の中でも、常に住民の健康管理に目をむけた事業を展開していく。	継続

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
子ども未来部	◆わかりやすい相談窓口の設置と周知。	◆市広報等への掲載やイベント等でのチラシの配布により、相談窓口の周知を行った。 ◆関係機関の実務担当者から意見を聴取しながら、発達支援に関連する相談先を分かりやすく紹介するために「相談窓口ガイド」を作成し、窓口等に設置した。 印刷部数：約5,000部 主な配布先： 乳幼児健診、就学時健診、窓口 ◆地域共生社会実現に向けて庁内会議を開催し、複合的な福祉課題について協議を行った。	◆「相談窓口ガイド」を作成し、相談窓口の周知を図った。	◆相談内容に関連する諸制度や相談ニーズに対応するために、相談員等の知識、スキルの向上に努める。	B	◆総合的な窓口の設置には至っていないものの、部門横断的な連携、情報共有を図る状況が多くみられたため	継続
教育部 (生涯学習課)	◆相談窓口の設置相談を受け、会場を提供する。	◆社会福祉協議会が行う地域住民助け合い事業の地区拠点として、公民館事務室を提供。	◆公民館としての主体的な活動ではないため、自主事業、貸館事業との調整が必要	◆事業実施に際し、関係課との綿密な連絡調整が必要	B	主体的な活動は行っていない。	継続

② 社会福祉協議会

- ▶ 社協だよりやホームページなどを通して市民に各種相談窓口の情報を周知します。
- ▶ 行政、専門機関、地域住民などと連携を図り、相談支援のネットワークを強化します。
- ▶ 窓口に必要な資格を持った職員を配置し、また、研修などを通して職員一人ひとりのスキルアップを図り、質の高い相談支援体制づくりに努めます。

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係	<ul style="list-style-type: none"> ◆行政、専門機関、地域住民などとのネットワークを強化する。 ◆地域からの相談に対し、適切な対応が出来るようスキルアップを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆コロナ禍で研修会へ参加できなかった ◆地域からの相談に対し、行政、専門機関、地域住民と連携し対応 ◆地域ケア会議等（オンライン）に参加し、行政、専門機関、地域住民とのネットワークを強化 	<ul style="list-style-type: none"> ◆相談や会議を通じて、行政、専門機関、地域住民と連携し、ネットワークづくりを強化した。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域支援員、地域支援員推進員の知識・情報の共有を図り、質の高い相談体制をつくる。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ◆オンラインを活用するなど、ネットワークづくり・スキルアップを強化できた。 	継続
黒磯支所 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> ◆行政、専門機関、地域住民などとのネットワークを強化する。 ◆地域からの相談に対し、適切な対応が出来るようスキルアップを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆住民からの相談に対し、市・包括・自治会役員・民生委員と連携し対応した。 ◆コロナの影響により、急増した生活困窮者の相談に対し、相談ブースを増設し対応した。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆住民・関係機関と連携をとり、相談支援にあたった。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆さまざまな相談に対応するため、研修等を受講し職員の資質向上を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆住民・関係機関との連携を強化できたため。 	継続
塩原支所 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> ◆質の高い体制づくりをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆主な相談窓口である、市の窓口の他、民生委員・児童委員や包括と連携し、相談体制を維持できるよう努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆今後も福祉的な相談事例が多く見込まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆できるだけ多くの成功事例を積み上げる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆ある程度地域と協働できる支援可能な事例を持つことができたため。 	継続
総務・経理係	<ul style="list-style-type: none"> ◆社協だよりの発行を年6回から4回とする。 ◆社協からの最新の情報をHPに掲載する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆コロナ禍で、社協だより4月20号と7月20号が全戸配布できなかったが、HPに加え、地域福祉課発信で社協のFacebookを開設し情報発信を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆社協だよりが年6回から4回の発行となり、コロナ禍で全戸配布が出来なかったが、Facebookの開設により新しい情報発信の場ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆HPやFacebookを活用し、リアルタイムな情報を発信していく。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ◆社協だよりの発行回数の減や、コロナ禍で全戸配布ができず紙面による情報の発信ができなかった。 	継続

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
生活支援係	<p>◆広報誌やパンフレットを通して、制度の周知を行う。</p> <p>◆関係機関との連絡を密に行う。</p> <p>◆国・県が主催する研修会に参加し、職員のスキルアップと情報収集を図る。</p>	<p>◆コロナ禍で研修等に参加することができなかった。</p> <p>広報誌を通じ、相談窓口の情報提供を行った。</p>	<p>◆関係機関からつながることが増え、相談窓口としての認知が定着してきていると感じる。今年度は思うように他機関との連携ができなかった。</p>	<p>◆他機関との連携を進め、ワンストップの総合的な相談窓口としての体制づくりに努めていく。</p>	B	<p>◆相談窓口の周知、関係機関との連携は進んでいる。</p>	継続
福祉サービス支援係	<p>◆居宅介護支援及び特定相談支援に関わる職員の配置により、関係機関を中心として地域に向けてネットワークを形成する。</p>	<p>◆今年度は、新型コロナウイルス拡大防止のため、様々な会議が中止となりましたが、新たにオンラインでの研修等など行うことができました。</p>	<p>◆今年度は、新型コロナウイルスの影響はありましたが、相談支援を継続することができた。</p>	<p>◆職員のスキルアップを図るうえで、今後、新たな研修の形（オンライン）に慣れていき、質の高い相談支援体制を作る。</p>	B	<p>◆新たな相談支援ネットワークの方法の構築を図る必要があるため。</p>	継続
ボランティアセンター	<p>◆ボランティアセンター本所、ボランティアセンター黒磯とともに『地域に開かれた存在』としてコーディネートを行う。</p>	<p>◆ボランティアセンター本所・ボランティアセンター黒磯とともに『地域に開かれた存在』としてボランティアの窓口として定着してきた。新型コロナウイルスにより相談件数は減 ボランティア相談者数 H30年度1月末… 2,510件 R01年度1月末… 4,013件 R02年度1月末… 1,936件</p>	<p>◆ボランティアセンター2ヶ所が定着して、多くの市民やボランティアの窓口となっている。</p>	<p>◆ボランティアセンターの窓口を視覚的にわかりやすくしていく（本所・黒磯とも他係と同フロアなため）</p>	A	<p>◆ボランティアセンター本所・黒磯とともに多くの市民やボランティアの窓口となっている。</p>	継続

③ 市民や関係団体

- ▶ 地域の中で困っている人がいたときには、各種相談窓口にご相談するよう勧めます。
- ▶ 市や社協の広報紙やホームページなどで相談窓口を確認します。
- ▶ 地域包括支援センターなどの専門機関や民生委員・児童委員の業務を理解し、連絡先を地域で共有します。

所管	R2実績
地域支援係	◆市、社協広報紙及びホームページにより相談窓口を確認し、相談先の紹介や相談を受けた。また社協facebookで情報収集し、相談を受けた。
塩原支所地域福祉係	◆困りごとは、主に、市、自治会長、民生委員・児童委員に相談し、包括や社協（地域支え合い推進員）から必要な情報の提供を受けた。
総務・経理係	◆新型コロナウイルス感染症の影響で生活に困窮する方などが「生活福祉資金の特例貸付」の相談するため、HPなどから情報を得て来所している。
生活支援係	◆民生委員に地域の困っている人を情報提供した。

令和2年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

- 基本目標 1 誰もが利用しやすい地域福祉の仕組みづくり
 施策の方向性 1 誰もが利用しやすい体制・情報提供の充実
 今後の取組 (2) 福祉に関する情報提供の充実
 ① 行政
 ▶ 福祉関連NPO法人、福祉事業者、福祉協力店などと連携し、情報提供を行います。
 ▶ 個人情報の保護に配慮しつつ、地域と連携する仕組みを検討します。

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部 (社会福祉課)	◆福祉関連NPO法人、福祉事業者、福祉協力店などと連携し、情報提供を行う。 ◆災害発生時に備え、個人情報の保護に配慮しつつ、避難行動要支援者支援制度を推進し、平常時から地域の連携を強化する仕組みづくりに努める。	◆広報、ホームページ、各施設窓口にて相談窓口の周知、福祉に関する情報提供を行った。 ◆避難支援等関係者に対する同意者名簿の提供について、自治会と個人情報の取扱いに関する協定を締結した上で、自治会の体制に依りて同意者名簿を提供した。 ◆名簿の様式を変更し、同意者ごとに緊急連絡先を掲載し提供した。	◆広報、ホームページ、各施設窓口にて相談窓口や福祉に関する情報提供を行い、相談機会の周知に努めた。 ◆同意者名簿に緊急連絡先を掲載することで、緊急時の連絡先がすぐに確認できるようになった。	◆継続して情報提供を行っていく必要がある。 ◆避難行動要支援者支援制度の理解促進と活用方法の検討	B	◆引き続き周知を行っていく。 ◆地域が利用しやすいように少しずつ改善を行っている。	継続

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部 (高齢福祉課)	◆災害発生時に備え、個人情報保護に配慮しつつ、避難行動要支援者支援制度を推進し、平常時から地域の連携を強化する仕組みづくりに努める。	◆公立公民館区に地域支え合い推進員の配置し、地域の困りごとなどの把握、解決に向けた話し合いを行いながら、見守り助け合う地域づくりに取り組んだ。 ◆見守り活動等を実施した自治会数 H30…73 R1 …84 R2 …111(R3.1月末)	◆地域包括支援センターや地域支え合い推進員が、地域住民を交えた会議や活動を通じ、地域の住民や事業所等と連携できる体制を拡充することができた。	◆見守り活動等に取り組めていない自治会があるため、引き続き、自治会に出向き、取組への参加を粘り強く呼びかける。	A	◆見守り活動を実施する自治会数が増えたことで連携できる体制を拡充することができたため。 (第7期高齢福祉計画値 R2 90箇所)	継続
子ども未来部	◆NPO法人と連携し、子育てに関する情報を提供する。	◆親子つどいの広場をNPO法人に委託し、連携しながら情報の提供や共有ができた。 ◆子育てサロンの開催場所や時間を掲載したサロンマップを作成し、保健センターや庁舎窓口に設置した。 ◆子育てコンシェルジュが子育てサロンを訪問し、情報提供を行った。	◆子育てサロンマップに掲載し、開催場所や時間の周知はできた。子育て世代はHPから情報を得ることが多いので、掲載内容、検索しやすい方法の検討が必要。	◆適時適切な情報が提供できるよう、情報発信の方法を工夫する。	B	◆子育てサロンでの子育てコンシェルジュによる周知活動で情報提供の充実が図られたため。	継続

② 社会福祉協議会

- ▶ 社協だよりやホームページなどの内容の充実にも努め、また、福祉協力店などを活用し、地域住民へ福祉サービスなどの情報を提供します。
- ▶ 地域ごとの広報紙の作成などによる情報提供の仕組みづくりの支援の方法について検討します。

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係	◆地域住民へ福祉情報の提供	◆地域壁新聞、福祉協力店の情報をホームページに掲載し、更新に努めた ◆地域福祉活動補助金制度で自治会の広報誌発行支援 ◆facebookを活用し、情報発信に努めた。	◆地域住民へ福祉情報の提供・支援ができた。	◆地域で実施している福祉活動の周知	B	◆ホームページの内容を充実し、facebookを活用し情報発信に努めた。	継続
黒磯支所	◆地域住民へ福祉情報の提供	◆地域の福祉活動を広報誌やHP・SNSにて情報発信した。 ◆公民館地区を対象とした地域住民助け合い事業の便りを作成し住民へ周知した。 ◆自治会で作成した見守り活動のチラシ作成を支援した。	◆地域ごとの福祉活動の様子を共有できた。	◆さらなる情報提供の充実を図るため、住民の手による広報誌作成などを活性化させる支援を行う。	B	◆情報提供の体制を強化することができた。	継続
塩原支所	◆福祉協力店制度の見直しや広報紙等を活用し、地域住民へ質の高い情報提供をする。	◆コロナ禍のため、地域に出向いてのPRは行わず、ホームページや広報誌により福祉サービスの案内を行った。	◆自治会活動自粛のため、成果・課題の検証に至らず。	◆コロナ感染症に注意しながら、福祉サービスの案内に不備が無いようにする。	B	◆十分な福祉情報提供ができなかったため。	継続
総務・経理係	◆社協だよりの発行を年6回から4回とする。 ◆社協からの最新の情報をHPに掲載する。	◆コロナ禍で、社協だより4月20号と7月20号が全戸配布できなかったが、HPに加え、地域福祉課発信で社協のFacebookを開設し情報を発信行った。	◆社協だよりが年6回から4回の発行となり、コロナ禍で全戸配布が出来なかったが、Facebookの開設により新しい情報発信の場ができた。	◆HPやFacebookを活用し、リアルタイムな情報を発信していく。	C	◆社協だよりの発行回数の減や、コロナ禍で全戸配布ができず紙面による情報の発信ができなかった。	継続

③ 市民や関係団体

- ▶ 地域ごとで広報紙の作成などによる情報提供の仕組みづくりを検討します。
- ▶ 回覧板や広報紙などをみる習慣を身につけます。
- ▶ 地域の中で福祉に関する情報を共有するように努めます。

所管	R2実績
地域支援係	<ul style="list-style-type: none"> ◆自治会での広報誌を発行し、福祉活動の情報を発信した ◆公民館等で福祉に関する情報の掲示 ◆コミュニティで広報誌を発行し、福祉活動の情報を発信した ◆地域で話し合いの場を設け、地域課題や情報交換をした
塩原支所地域福祉係	◆福祉に関する情報は、市の広報の他、社協だよりやボランティア情報誌から得た。
総務・経理係	◆社協だよりの発行回数の減やコロナ禍で社協だよりの全戸配布の中止などにより福祉関連の様々な情報が得られなかった。

令和2年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

- 基本目標 1 誰もが利用しやすい地域福祉の仕組みづくり
 施策の方向性 2 地域福祉のニーズキャッチの充実
 今後の取組 (1) 地域における福祉活動を通じたニーズキャッチ
 ① 行政
 ▶ 地域における、子ども、高齢者、避難行動要支援者などの見守り活動などを通じたニーズをキャッチする仕組みづくりを推進します。
 ▶ 積極的に地域へ出向いて、ニーズをキャッチする仕組みを検討します（アウトリーチ）。
 ▶ 福祉関連NPO法人、福祉事業者、福祉協力店などと連携し、ニーズのキャッチに努めます。

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部 (社会福祉課)	<p>◆地域自立支援協議会の各専門部会において福祉従事者や当事者から地域課題の抽出を行う。</p> <p>◆地域における避難行動要支援者等の見守り活動などを通じたニーズキャッチする仕組みづくりを推進する。</p>	<p>◆地域自立支援協議会の専門部会において福祉従事者から地域課題の抽出を行っている。</p> <p>◆災害時だけでなく、日ごろの地域の見守りに活用するため、避難行動要支援者支援名簿を自治会長や役員等、民生委員に配布した。</p> <p>◆地域の見守り等によりキャッチした課題について受け止める体制の構築について検討を行った。</p>	<p>◆コロナの影響により当事者部会は活動自粛となり、活動を通じてのニーズ把握はできなかった。</p> <p>◆市、社協、地域、事業者等のネットワーク構築に向けて具体的な体制構築に向けての協議を行うことができた。</p>	<p>◆把握したニーズを施策に反映する仕組みや、関係課が横断的に情報共有する仕組みを検討する。</p> <p>◆見守り活動等により早期発見、早期対応を図る体制を構築する。</p>	B	<p>◆事業者を通して、間接的に地域のニーズが把握ができているため。</p> <p>◆ネットワーク構築によるニーズキャッチやそれを受け止める体制について検討を行うことができた。</p>	継続

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部 (高齢福祉課)	<p>◆地域における、子ども、高齢者、避難行動要支援者などの見守り活動などを通じたニーズをキャッチする仕組みづくりを推進する。</p> <p>◆積極的に地域に出向いて、ニーズをキャッチする。</p> <p>◆福祉関連NPO法人、福祉事業者、福祉協力店などと連携し、ニーズをキャッチする。</p> <p>◆地域ケア会議や協議体（見守り活動等の実施団体など）の設置し、ニーズをキャッチする。</p>	<p>◆協議体（見守り活動等の実施団体） H30…73 R1 …84 R2 …111(R3.1月末)</p> <p>◆地域ケア会議の開催 各地域包括支援センターが黒磯（7圏域）・西那須野（2圏域）・塩原（1圏域）を対象に開催</p>	<p>◆地域包括支援センターや地域支え合い推進員が、地域住民を交えた会議や活動を通じ、子ども、高齢者等のニーズを把握できる体制を拡充することができた。</p>	<p>◆地域課題について話し合う場やニーズを把握する場として、見守り活動等を実施する自治会を増やしていく。</p>	A	<p>◆見守り活動を実施する自治会数が増えたことで連携できる体制を拡充することができたため。 (第7期高齢福祉計画値 R2 90箇所)</p>	継続

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
子ども未来部	<p>◆地域における子どもの見守り活動やNPO法人等と連携し、ニーズのキャッチに努める。</p> <p>◆福祉関連NPO法人と連携し、ニーズのキャッチに努める。</p>	<p>◆ファミリーサポートセンターの運営と公設放課後児童クラブの運営を委託しているそれぞれのNPO法人と連携し、利用者からの生の声を聴き、ニーズの把握に努めた。</p> <p>◆民生委員児童委員の会議等への出席や、NPO法人と情報共有を図り、現状把握に努めた。</p> <p>◆子育てコンシェルジュが各子育てサロンを訪問することで、利用者等の生の声を聴き、ニーズの把握に努めた。</p>	<p>◆公設児童クラブの委託先であるNPO法人と定期的な意見交換を実施した。</p> <p>◆民生委員児童委員の会議等への出席や事業受託NPO法人との意見交換により、地域の現状や利用者のニーズの把握に努めた。</p> <p>◆子育てコンシェルジュが各子育てサロンを訪問することで、利用者等の生の声を聴き、ニーズの把握に努めた。</p>	<p>◆NPO法人との定期的な意見交換を継続する。</p>	B	<p>◆民生委員児童委員やNPO法人等委託事業者と連携したニーズの把握が図られているため</p>	継続

② 社会福祉協議会

- ▶ 職員が積極的に地域に出向き、支援が必要な人の情報をキャッチするよう努めます（アウトリーチ）。
- ▶ 社協が行う高齢者、障害者、生活困窮者などに対する事業を展開する中で、支援が必要な人の早期発見に努めます。
- ▶ 各種福祉団体との連携の中で、支援が必要な人の早期発見に努めます。
- ▶ 地域の中で支援が必要な人の情報が共有できるような仕組みづくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 日頃からの見守り活動を通じて生活の中で異変に気づいた際に専門機関などに連絡するような体制づくりを支援します。

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域住民助け合い事業の実施 ◆配食サービス事業の実施 ◆心身障害児者父母の会との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ◆コロナ禍でも自治会の見守り活動を支援し、見守り対象者の情報を共有 ◆見守り活動を通じて、地域の中の心配な方の早期発見に努めた ◆配食サービス事業の配達ボランティアと地域支え合い推進員と連携し利用者の情報を共有。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆事業の対象者に異変があったときに関係機関と連携し対応した。見守り活動を通じて、支援が必要な人の早期発見に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆支援が必要な人を早期発見できるような支援体制の構築 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆対象者に異変があったときに関係機関と連携し対応した。 	継続
黒磯支所地域福祉係		<ul style="list-style-type: none"> ◆地域住民の見守りマップ作成を支援した。 ◆生活困窮者の相談に対し、必要な支援に応じた関係機関へつないだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆コロナ禍のため、地域に出向く機会が少なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ニーズキャッチするため、アウトリーチの機会を増やすよう努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域で心配な人の情報を共有できるよう支援をした。 	継続
塩原支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> ◆情報の共有を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ◆コロナ禍のため、地域に出向いてのアウトリーチができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆実績を残せなかったため評価できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆新生活様式の下、感染予防対策を講じながら、できるだけアウトリーチを試みる。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ◆実績なし。 	継続

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
生活支援係	<ul style="list-style-type: none"> ◆困りごとを抱えている人の情報が入った際には、本人の了承を得て、自宅に訪問する。 ◆相談者の抱える問題を確認し、必要な関係機関と連絡を図る。 ◆見守りが必要な人には、関係機関に報告し、見守り体制を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆コロナ禍による貸付相談が増加した。経済の動きが止まるなか、どのような方たちが影響を受けているのかを知る機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆多くの相談からニーズを知ることはできたが、件数が多く体制的に十分ではなく、他機関・他制度への情報提供にとどまった。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆国の施策など十分に情報が行き届いていないことがあり、他機関と連携体制を検討していくことが必要。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆普段とは違う対応をする中で、どのような体制で、どのように連携を進めて行くのか検討が必要。 	継続
福祉サービス支援係	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域における支援が必要な高齢者、障害者の早期発見、支援につなげる仕組みづくりを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆今年度は新型コロナウイルスの影響があり、感染拡大防止が前提であったが、地域支援係や生活支援係などと連携し、地域での支援が必要な方への継続的な支援を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆新型コロナウイルス拡大防止のため、活動に制限あったところだが、支援における係間の連携ができ、必要な支援の必要な人の発見ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆職員、係間の連携により、支援者の把握を行うことができて来たが、情報の共有できる仕組みづくりの方法をさらに検討する必要がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆各係、支所等を通じての相談が増えてきた。情報の共有する方向性はできてきている。 	継続
ボランティアセンター	<ul style="list-style-type: none"> ◆外部団体などとのネットワークを強化 ◆講座等を開催し地域の仕組みづくりを行う ◆社協の他の係と連携し、地域課題の解決に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆独居高齢者宅のごみ収集のため、地域支援と情報共有や活動ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆外部団体や社協の他の係と連携し、地域課題の解決に関わることが出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆今後もネットワークを拡大し、地域課題の解決に関わって行くことが必要。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆支援が必要な人のため、外部団体や社協の他の係と連携し、支援に関わることが出来た。 	継続
つくし	<ul style="list-style-type: none"> ◆つくし利用者の在宅での生活状況の把握にも努め、異変等に合わせたサービス利用につながるよう支援を行う。 ◆また、その家族に対しても同様の支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆変化に合わせたアドバイスや専門機関への助言やサービス利用につながるよう支援してきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆相談支援専門員と連携を図り個人の生活状況や家族状況の変化に合わせた支援を行えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆職員が利用者の障害の特性を理解し、施設においてどのような支援が適切か考える必要がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆課題にぶつかりながらその都度、知識と意識の向上が図れている。 	継続

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
心の里	<ul style="list-style-type: none"> ◆利用者の状況を把握し、必要な支援、サービスを関係機関と連携し進めていく。 ◆利用希望者等の見学や実習を受け入れ、支援が必要な人への適切な対応に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆利用者の相談支援員と連携し、サービスの利用を促進した。 ◆支援計画の枠にとらわれず、柔軟な対応で支援を進めた。 ◆コロナの影響で施設利用実習が期間短縮で対応した。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆関係機関と連携し、利用者の生活改善のため、支援計画の枠にとらわれず、他事業所との情報交換や直接支援を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆利用者が必要とするサービスの利用開始に向け、関係機関と連携し支援していく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆関係機関との情報共有、課題検討などを実施し、利用者の支援の向上に努めた。 	継続
ふれあいの森	<ul style="list-style-type: none"> ◆施設内において、利用者の変化を察知しいち早くニーズを捉える体制づくりを徹底する。 ◆利用者や保護者の方の根底にあるニーズキャッチが出来るように、個別面談等を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆保護者との連絡帳を活用し施設での様子を伝え家庭と施設の絶え間のない支援を目指した。 ◆利用者及び保護者との個別面談により細かいニーズを把握し支援計画を作成、それに基づいた支援を行った。 ◆コロナにより行事等を中止することになったが、施設内で行える範囲で利用者の特性にあった作業や活動を考え提供するよう努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆利用者の状況を保護者や相談支援員と共有することができた。利用者の特性や意向に合わせた作業や訓練、レクリエーションを提供していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆利用者の特性に合った活動を提供できるようにする。コロナ禍においても利用者が生きがいを持って活動できるような行事等を工夫する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆保護者及び職員間で情報を共有し事故等なく利用の継続がされている。 	継続

③ 市民や関係団体

- ▶ 地域見守り活動や、地域ケア会議などを通じて、課題やニーズをキャッチします。
- ▶ 地域の中で支援が必要な人の情報を共有する方法について検討します。
- ▶ 日頃からの見守りや、日頃の生活の中で認知症、生活困窮、孤立などから生じる異変や虐待に気づいた際には、行政、民生委員・児童委員、社協、地域包括支援センターなどに連絡します。

所管	R2実績
地域支援係	<ul style="list-style-type: none"> ◆自治会での見守り活動を通じて、支援者の情報共有や関係機関の連携を行った。 ◆地域ケア会議（会場やオンライン）に参加し、地域の課題について検討し、さらにその課題についての勉強会、検討会に参加した
塩原支所地域福祉係	◆困りごとがあったときは、行政、自治会長、民生委員・児童委員に相談し、その後、主に包括や社協（地域支え合い推進員）と情報を共有し見守りを行った。
生活支援係	◆地域ケア会議に参加し生活困窮者などの事例から実態を知った。
つくし	◆新型コロナウイルス感染症対策の影響で年間行事やイベントの中止が続き、外出しての交流が図れなかった。地域活動、地域交流ができなかった。
ふれあいの森	<ul style="list-style-type: none"> ◆保護者との連絡帳を活用し、施設での様子を伝えることにより家庭と施設の絶え間のない支援を目指した。 ◆利用者及び保護者との個別面談により細かいニーズを把握し支援計画を作成、それに基づいて支援を行った。 ◆コロナにより行事等を中止することになったが、施設内で行える範囲で利用者の特性にあった作業や活動を考え提供するよう努めた。
心の里	<ul style="list-style-type: none"> ◆コロナ禍の影響でスポーツイベントや行事等が中止になり、地域交流の機会が減ってしまった。代替えとして利用者の健康の保持増進や、意欲を見出して行けるように施設内レクリエーションや屋外の散歩等を定期的実施した。 ◆施設内だけの支援だけではなく、利用者の生活全般へのニーズに対し、他の社会資源に繋げたり、連携を図りながら支援をし、生活の質の向上に努めた。 ◆相談支援員、他事業所等、利用者に係る機関と密に連絡をとり、利用者が安心してサービスを利用できるよう支援した。

令和2年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

- 基本目標 1 誰もが利用しやすい地域福祉の仕組みづくり
 施策の方向性 2 地域福祉のニーズキャッチの充実
 今後の取組 (2) 民生委員・児童委員と連携したニーズキャッチ
 ① 行政
 ▶ 民生委員・児童委員と自治会などが連携協力し、地域における福祉ニーズをキャッチする仕組みづくりを推進します。

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部 (社会福祉課)	<ul style="list-style-type: none"> ◆民生委員児童委員との連携を図り、地域のニーズをキャッチする体制を構築する。 ◆民生委員活動の中、生活に困窮する者の発見及び見守り活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆民生委員の定例会に、行政の立場として参加し、地域の福祉需要の情報収集に努めた。 ◆民生委員より生活困窮者に対し相談窓口への案内を行った。 ◆民生委員の委嘱・交代の際に、担当区域自治会長へ情報提供を行った。 ◆コロナ禍により対面での訪問活動が難しい期間でも、民生委員の連絡先を記載したチラシの投函訪問や電話連絡、点灯確認などの見守りを行い、異変があった際に市へ引継ぎを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆定例会において、感染対策に注意した上で情報収集・提供に努め、個別の相談事案について関係部署等につないだ。 ◆感染対策のための定例会時間短縮により、地域担当間での情報交換や活動報告の時間が十分に取れなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆民生委員の定例会議に引き続き出席し、地域での困りことなど、福祉の需要の情報収集に努める。 ◆活発な民生委員活動を行うことにより、ニーズの把握や生活困窮者の早期発見・対応につながる。 	B	◆引き続き、情報収集をしていく必要があるため。	継続

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部 (高齢福祉課)	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員児童委員との連携を図り、地域のニーズをキャッチする体制を構築する。 民生委員活動の中、生活に困窮する者の発見及び見守り活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域ケア会議や協議体に参加する民生委員等を連携し、ニーズのキャッチに取り組んだ。 ・協議体（見守り活動等の実施団体） H30…73 R1 …84 R2 …111(R3.1月末) ◆地域ケア会議の開催 各地域包括支援センターが黒磯（7圏域）・西那須野（2圏域）・塩原（1圏域）を対象に開催 	<ul style="list-style-type: none"> ◆見守り活動の増加や地域ケア会議の開催により、民生委員児童委員との連携する機会が増え、地域のニーズを把握できる体制を拡充できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域課題について話し合う場やニーズを把握する場として、見守り活動等を実施する自治会を増やしていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ◆見守り活動を実施する自治会数が増えたことで連携できる体制を拡充することができたため。（第7期高齢福祉計画値R2 90箇所） 	継続
子ども未来部	<ul style="list-style-type: none"> ◆民生委員と連携し、ニーズのキャッチに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆民生委員児童委員の会議等に参加し、情報提供及び提供方法の確認を行うとともに、地域の情報収集及び情報共有に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆民生委員児童委員の会議等に参加し、地域の現状の把握に努め、情報提供及び提供方法の確認を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域における福祉ニーズをキャッチするためのさらなる仕組みを検討していく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆会議に参加することで、地域の現状把握とともに徐々に福祉ニーズをキャッチすることができるようになった。 	継続

② 社会福祉協議会

- ▶ 民生委員・児童委員と情報の共有や連携を強化し、ニーズのキャッチに努めます。
- ▶ 民生委員・児童委員と地域住民が連携し、地域のニーズをキャッチする仕組みづくりを支援します。

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係	◆民生委員・児童委員との情報共有及び連携強化	◆地区定例会に参加し、情報の共有及び連携の強化を図る ◆民生委員と連携し、自治会の見守り活動を推進し、心配な方を支援した ◆民生委員とこども子育て総合センターと連携し、支援が必要な世帯へ無料ヘアカット券を配布し相談しやすい環境づくりを構築した。	◆民生委員と連携し情報を共有し、地域支援を行った	◆地域のニーズをキャッチする仕組みづくりの強化	B	◆民生委員と連携し情報を共有した。	継続
黒磯支所地域福祉係	◆民生委員・児童委員との情報共有及び連携強化	◆地域の心配な方に対して、民生委員、自治会長と連携して支援した。 ◆見守り活動の報告会などで情報交換、共有を行った。	◆民生委員・地域住民と連携して情報共有ができた。	◆全ての地区において、連携できる仕組みを構築する。	B	◆地域住民との連携による心配な方の支援ができた。	継続
塩原支所地域福祉係	◆民生委員児童委員と地域住民が連家を強化してニーズのキャッチする。	◆コロナ禍のため、民児協定例会が開催されず、会合での意見交換ができなかった。	◆会合での意見交換はできなかったが、個別の支援事例においては意見交換できた。	◆個別の支援事例についても、できるだけ、会合において多くの意見を聞くべき。	B	◆個別の事例においては、ある程度意見交換できた。	継続

③ 市民や関係団体

- ▶ 日頃から民生委員・児童委員の業務を理解し、自分の住んでいる地域で支援を必要としている人を担当している民生委員・児童委員を把握します。
- ▶ 民生委員・児童委員と地域住民が連携し、地域のニーズをキャッチする仕組みづくりに協力します。

所管	R2実績
地域支援係	<ul style="list-style-type: none"> ◆コロナ禍で自治会の福祉活動（友愛訪問・生きがいサロンなど）が縮小や中止となったところもあったが、民生委員・児童委員と連携して実施 ◆見守り活動を通して、民生委員・児童委員と連携し心配な人の支援にあたった
塩原支所地域福祉係	◆困りごとの多くは、自分が住んでいる区域担当の民生委員・児童委員に相談した。

令和2年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

- 基本目標 1 誰もが利用しやすい地域福祉の仕組みづくり
- 施策の方向性 3 福祉サービスの充実と権利擁護の推進
- 今後の取組 (1) 日常生活を支援する地域における福祉活動の充実
- ① 行政
- ▶ 地域課題の解決のための体制づくりを推進します。
 - ▶ ごみ出し、買い物、通院などのボランティアの仕組みづくりを推進します。

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部 (社会福祉課)	◆地域課題の解決のための体制づくりを推進する。	◆地域課題の解決のための体制づくりの推進として、社会福祉協議会における地区社協設置に向けた進捗状況を把握し、今後の設置計画に対する相談支援を行った。 ◆地域の課題を集約する相談支援ネットワークの構築に向けて具体的な事業計画を策定した。 ◆庁内の地域支援を行っている担当課及び社協において検討会議を設置し、地域の課題について情報共有及び検討を行った。(分野をまたいだ取組み)	◆四半期ごとの地区社協設立の進捗状況確認、適宜打合せ会を実施。 ◆福祉総合相談窓口を中心とした包括的な相談支援体制について具体的な検討を行うことができた。 ◆社協や多分野との情報共有ができた。	◆地域の課題やニーズを、地域が解決していくための自主性を育むため、社会福祉協議会と連携して取り組む。 ◆地域の中で課題を解決する仕組みについて地域と共に検討を行う。 ◆地域課題を包括的に受け止める体制を構築する。	B	◆引続き、体制整備の支援が必要である。 ◆コロナ禍であったため、地域の活動が停滞したが、次年度からの実施に向け事業計画を検討することができた。	継続
保健福祉部 (高齢福祉課)	◆地域課題の解決のための体制(協議体)を整備し、見守りやごみだし・買い物等の支援を行う担い手確保に取り組む。	◆協議体(見守り活動等の実施団体) H30…73 R1 …84 R2 …111(R3.1月末)	◆見守り活動等の実施団体が増加し、地域のニーズを把握できる体制、地域で見守り助け合う担い手を拡充することができた。	◆地域課題について話し合う場や担い手を拡充するため、見守り活動等を実施する自治会を増やしていく。	A	◆見守り活動を実施する自治会数が増えたことで連携できる体制を拡充することができたため。 (第7期高齢福祉計画値 R2 90箇所)	継続

② 社会福祉協議会

- ▶ 地域の中で定期的に地域課題の解決に向けて話し合う場づくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 地域の中で支援が必要な人に対する見守り活動や生活支援に関わるボランティアの仕組みづくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 福祉施設の中にある空きスペースなどを地域の居場所として活用できるよう支援の方法について検討します。

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係	◆福祉施設の地域交流スペースなど活用した居場所づくりの支援	◆福祉施設の地域交流スペースなど活用した居場所が増えてきた。(ケアラー、当事者の居場所、こども食堂)	◆福祉施設の地域交流スペースや個人のお宅を利用した居場所を活用した事業等の支援ができた。	◆福祉施設の空きスペースや個人のお宅を利用した居場所を有効活用した事業等の支援強化	B	◆地域における福祉活動を支援した。	継続
黒磯支所地域福祉係	◆話し合いの場について検討する。	◆公民館地区で地域課題についての話し合いを行った。	◆地域での話し合いの場を開催することができた。	◆定期的な話し合いの場を増やす。	B	◆地域での話し合いの場を開催できたため。	継続
塩原支所地域福祉係	◆話し合いの場について検討する。	◆コロナ禍のため、特にアウトリーチができず、支援が必要な人を拾う事が出来なかった。	◆地域において見守り活動が1か所立ち上がった。	◆見守り活動を他の地域にも広げる。	C	◆実績が僅少。	継続
ボランティアセンター	◆こどもの支援に関わる団体や居場所づくりに関わる団体などとのネットワークづくりや情報交換を行う ◆講座等を開催し地域の仕組みづくりを行う。 ◆地域支援(福祉)係との連携による地域課題の解決や仕組み作りを行う。	◆独居高齢者の自宅外のごみ収集のため、ボランティア派遣をしたが、継続的なボランティアの関わりには課題がみえた。 ◆コロナ禍の影響により地域活動も少なかったためそれに関わるボランティアの検討にも至らなかった。	◆さまざまな地域課題に対し、社協だけでなくボランティアと連携し、地域に関わって行くことが必要。	◆共生社会におけるボランティアの役割に対するコーディネートの柔軟性及び線引き。そのためのケースの積み重ね。 ◆地域において多世代の福祉教育の促進。	B	◆コロナ禍の影響により福祉の活動ができない状況だったため正確な評価はできない。	継続

③ 市民や関係団体

- ▶ 定期的に地域課題の解決に向けて話し合う場を設け、市や社協などと連携して問題解決に努めます。
- ▶ 自分のできる範囲で、地域の中で支援が必要な人に対する見守り活動をします。
- ▶ ごみ出し、買い物、通院などの生活支援に関わるボランティアの仕組みづくりを検討します。
- ▶ 福祉施設の中にある空きスペースなどを地域の居場所として活用できるよう検討します。
- ▶ 自分のできる範囲で、ボランティア活動などに主体的に参加します。

所管	R2実績
地域支援係	<ul style="list-style-type: none"> ◆コロナ禍でも自治会の見守り活動を実施しているところと連携し、情報交換の場を設けたり、心配な人の支援にあたった ◆福祉施設の空きスペースを活用した居場所や自宅を利用した居場所に参加した。 ◆地域ケア会議（会場やオンライン）への参加し、地域の課題について検討し、さらにその課題についての勉強会、検討会に参加した
塩原支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> ◆コロナ禍により見守り等の会合が行われなかったため、困りごとは、行政、自治会長、民生委員・児童委員に相談し、その後、主に包括や社協（地域支え合い推進員）と問題解決に努めた。

令和2年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

基本目標 1 誰もが利用しやすい地域福祉の仕組みづくり

施策の方向性 3 福祉サービスの充実と権利擁護の推進

今後の取組 (2) 支援が必要な人への福祉サービスの充実

① 行政

- ▶ 障害がある人が、自立した日常生活又は社会生活を営めるよう、地域生活支援事業の充実を図ります。
- ▶ 認知症の人への支援の充実を図ります。
- ▶ スクールソーシャルワーカーを活用し、学校における諸問題を解決する仕組みの充実を図ります。
- ▶ ニーズキャッチで得た情報を活用し、ニーズに応じた福祉サービスの提供に努めます。
- ▶ 一時的に子どもを預けられる場の充実に努めます。
- ▶ 子育て中の親の孤立を防ぐ仕組みづくりを検討します。
- ▶ 地域における引きこもりや社会的な孤立を防止する仕組みを検討します。
- ▶ 個別計画を通じて、福祉サービスを提供する民間事業者の育成に努めます。
- ▶ 生活困窮者への支援体制の充実を図ります。

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部 (社会福祉課 障害福祉係)	◆障害のある人が、自立した日常生活又は社会生活を営めるよう、日常生活用具給付事業を拡充する。 ◆認知症サポーター養成講座の開催 ◆認知症初期集中支援チームの設置	◆日常生活用具給付事業実施要綱を改正した(市場価格に応じた基準額の改定等R3.4～) ◆地域自立支援協議会の専門部会において民間事業者の育成及びサービスの質の向上を図っている。	◆関係機関とともに福祉サービスの充実、福祉従事者の育成に取り組んでいるが、事業展開は民間事業者の判断によるため、制度改正や報酬改定の影響が大きい。	◆日頃からニーズの把握に努め、制度改正や人材育成に取り組み、福祉サービスの量と質を向上させる。	B	◆関係機関と連携し、福祉サービスの充実について検討がなされているため。	継続

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部 (社会福祉課 保護係)	<ul style="list-style-type: none"> ◆自立相談支援事業の実施（就労その他自立に関する相談支援） ◆住居確保給付金事業の実施（家賃相当額を支給） ◆家計改善支援事業（家計管理に関する相談、指導） ◆子どもの学習支援事業（学習環境を提供） ◆就労準備支援事業（就労に必要な訓練等） 	<ul style="list-style-type: none"> ◆学習支援事業以外の事業を社会福祉協議会に一体的に委託し、連携及び事業効果向上を図った。 ◆学習支援事業はコロナ禍の影響を受け、参加者を増やすことができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆住居確保給付金事業の支給要件が緩和されたことにより利用しやすい制度となった。 ◆事業全体の認知度を向上させる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆市ホームページにおいて情報発信 ◆事業認知度向上のため、会議、研修やイベント等において広報活動実施 	C	◆コロナ禍により他の事業が繁忙となり当該事業について十分な人員と時間を費やすことができなかった。	継続
保健福祉部 (高齢福祉課)	◆認知症サポーター養成講座の開催	<ul style="list-style-type: none"> ◆認知症サポーター養成者数（延べ） H30…5,875人 R1 …6,636人 R2 …6,656人 	<ul style="list-style-type: none"> ◆認知症サポーター養成講座を開催し、認知症の人やその家族の気持ちを理解しようとするサポーターを増やすことができた。 ◆コロナ禍により開催数が減少した。 	◆小中学校、企業や商工会、自治会への周知、オンラインによる開催を行い、認知症サポーター養成講座を開催し、一人でも多くのサポーターを増やしていく。	B	◆認知症サポーターの増加により、認知症の人と家族を地域で支える意識の啓発の一助となったため。	継続
子ども未来部	<ul style="list-style-type: none"> ◆子育て中の親の孤立を防ぐ仕組みづくり ◆一時的に子どもを預けられる場の充実に努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆子育てコミュニティ広場の運営 ◆子育てサロンを開催した。 ◆子育てコンシェルジュが個々の相談に応じた情報提供を行った。 ◆子育て短期支援事業（ショートステイ）の実施（4か所） ◆病児・病後児保育（3か所） ◆休日保育（3か所） ◆一時保育（9か所） ◆ファミリーサポートセンター 	<ul style="list-style-type: none"> ◆子育てサロンや子育て短期支援事業を利用することで、育児不安の解消や家庭の安定につながり、安心して子育てができる環境が整ってきている。 ◆休日や病気の子どもの預け先を確保することで、子育て支援の充実が図られた。 	◆子育てサロンマップやHP等の掲載内容や情報発信の方法を工夫する。 ◆病児・病後児保育等については、今後の利用ニーズを見極めながら、実施施設や方法などの見直しを検討していく。	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆子育て中の親子の育児不安の解消等に効果がみられるため。 ◆利用ニーズに応じた保育環境を提供することができた。 	継続

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
教育部 (学校教育課)	<ul style="list-style-type: none"> ◆SSWrによるソーシャルワークの実施 ◆教職員研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ◆SSWrによる対応件数 2, 157件(2月末現在) ◆教職員研修会は開催していないが、ケース会議などの場を活用し、対応や支援方法について助言することで、教職員の資質向上の一助となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆SSWrが福祉サービス等の外部機関にスムーズに接続することで、児童生徒の環境改善につながったが、隙間をつくらぬ支援に向けて関係機関全体で調整や支援をすることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆個々の多様な対応と継続した支援ができるよう、外部機関と密に連絡調整を行い、隙間をつくらぬ体制づくりに努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆隙間をつくらぬ支援方法に課題はあるが、介入ケースの環境改善につながっているため。 	継続

② 社会福祉協議会

- ▶ 地域の中で子育て中の親、高齢者、障害者などの孤立を防ぐ仕組みづくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 生活困窮者や引きこもりの人・制度の狭間にいる人などへの支援の充実を図ります。
- ▶ ニーズキャッチで得た情報を活用し、市民や関係団体の活動に対する支援の方法について検討します。

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係	◆地域住民助け合い事業で自治会の見守り活動を支援	◆コロナ禍でも自治会の見守り活動や居場所づくりを支援し、地域で孤立を防ぐ仕組みづくりを推進 ◆ひきこもり支援の居場所や活動する場所ができた	◆地域で孤立を防ぐ仕組みづくりを推進	◆自治会の見守り活動の支援	B	◆地域で孤立を防ぐ仕組みづくりを推進した。	継続
黒磯支所地域福祉係		◆生活困窮者からの相談に対して、関係機関と連携し支援を行った。 ◆ひきこもりの人を支援している民生委員に対して、相談会の情報提供をした。	◆生活困窮者からの相談に対して、関係機関と連携し支援を行った。	◆地域の中で孤立を防ぐ仕組みづくりを支援する。	B	◆生活困窮者に対して、関係機関と連携し支援を行ったため。	継続
塩原支所地域福祉係	◆地域の中で高齢者、障がい者などの孤立を防ぐ仕組みづくりの支援を検討する。 ◆ニーズキャッチで得た情報を活用し、市民や関係団体の活動に対する支援方法について検討する。	◆コロナ禍のため、地域内の見守りがかなり抑制的になり、ニーズキャッチも不十分だった。	◆実績を残せなかったことで評価できない。	◆新生活様式の下、感染予防対策を講じながら、できるだけアウトリーチを試みる。	C	◆実績不十分。	継続

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
生活支援係	◆支援が必要な方を早期に発見できるよう、関係機関と連携をとり情報共有を図る。	◆コロナ禍での貸付相談が増加した。 複数の債務が家計の負担になっている世帯、引きこもりの家族がいる世帯など、これまで見えなかった相談も増えた。	◆コロナ禍により問題が複雑化してしまった世帯が増えたように感じる。 今後もさらなる深刻化が懸念される。	◆貸付相談から見てきたニーズについて、どのような体制、どのような連携ができるのか検討が必要である。	B	◆このような状況下における支援体制について検討の必要がある。	継続
福祉サービス支援係	◆地域の中で子育て中の親、高齢者、障害者などの孤立を防ぐ仕組みづくりの支援の方法について検討します。	◆今年度は、新型コロナウイルスにより支援方法に配慮が必要であったが、継続して、地域の高齢者・障害者へサービス利用による支援を行うことができた。	◆個別支援を行うことはできたが、孤立を防ぐ仕組みづくりまでは至れなかった。	◆直接的な支援だけではなく、仕組みづくりの支援までを目的とするため、地域ケア会議などを活用した積極的な仕組みづくりの支援に向けての活動が必要。	B	◆地域支援係や生活支援係につなぐことにより地域資源につなげる支援を行うことができた。	継続

③ 市民や関係団体

- ▶ 子育て中の親、高齢者、障害者などの孤立を防ぐための仕組みづくりを検討します。

所管	R2実績
地域支援係	<ul style="list-style-type: none"> ◆自治会で支援が必要な人に対する見守り活動を行い、孤立防止に努めた。 ◆地域の中に居場所をつくり、心配な人の孤立を防いだ。 ◆facebookを活用し、若い世代等への情報発信に努めた。
塩原支所	◆これまで、社協の地域福祉活動補助金事業等を利用して世代間交流等、孤立を防ぐための事業を行ってきたが、コロナ禍のため、自治会活動自体を自粛した。
生活支援係	◆子どもの健診や行政の手続きの際に困りごとの事業の情報提供があった。

令和2年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

基本目標 1 誰もが利用しやすい地域福祉の仕組みづくり

施策の方向性 3 福祉サービスの充実と権利擁護の推進

今後の取組 (3) 権利擁護などの推進体制の充実

① 行政

▶ DV被害者、虐待被害者などへのサポート体制の充実を図ります。

▶ 成年後見制度の活用及び体制の充実を図ります。

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部 (社会福祉課)	<p>◆DV被害者、虐待被害者などへのサポート体制を充実させる。</p> <p>◆成年後見制度の活用及び体制を充実させる。</p>	<p>◆障害者虐待防止法に基づく一時保護の居室の確保に関し、那須地区内の3施設と協定を締結し、緊急時の受入れ体制を整備している。</p> <p>◆成年後見制度利用支援事業として、市長申立てにかかる費用や、成年後見人報酬への助成、司法書士会による相談会を実施している。</p>	<p>◆居室確保の協定に基づき障害者虐待被害者の緊急一時保護が円滑に行える。</p> <p>◆必要な方が成年後見制度を利用することができた。</p>	<p>◆成年後見制度利用支援事業の認知度が低い。</p>	B	<p>◆虐待案件に対しては、関係機関と連携して対応ができていたため</p>	継続
保健福祉部 (高齢福祉課)	<p>◆DV被害者、虐待被害者などへのサポート体制を充実させる。</p> <p>◆成年後見制度の活用及び体制を充実させる。</p>	<p>◆地域包括支援センターと連携し、高齢者虐待や成年後見などの権利擁護支援を行っている。</p> <p>◆後見人報酬の助成を行い、後見人を支援している。</p>	<p>◆地域包括支援センターと連携し、民生委員、介護・医療関係者とのネットワークを活用し、高齢者虐待の早期発見・対応、成年後見の利用支援を行い、高齢者の尊厳と安心した生活を図ることができた。</p>	<p>◆高齢者の増加に伴い、虐待や後見人に関する相談が増えると予想されるため、関係機関とのネットワーク強化を図り、早期に発見・対応に努めていく。</p>	B	<p>◆地域包括支援センター等と連携し、高齢者の権利擁護を支援することができたため。</p>	継続
子ども未来部	<p>◆男女間のあらゆる暴力の根絶を目指した様々な事業を推進する。</p>	<p>◆DV対応マニュアルの改訂を図った。</p> <p>◆職員研修や民生委員児童委員への研修会はコロナにより実施できなかった。</p>	<p>◆DV対応マニュアルを策定したことにより、関係課を含めた対応を統一することが出来た。</p> <p>◆コロナにより、庁内研修ができなかった。</p>	<p>◆関係課を含めた継続的なスキルアップ</p> <p>◆DV防止を目的とした広報啓発の実施</p>	B	<p>◆コロナにより、庁内研修ができなかったが、マニュアル作成時に関係課の状況等を把握することができた。</p>	継続

② 社会福祉協議会

- ▶ 社協が行う高齢者・障害者・生活困窮者などに対する事業を展開する中で、NPO法人などの関係機関と連携を図りながら支援が必要な人の権利擁護に努めます。
- ▶ 認知症や知的障害があり、日常生活に不安を抱える人などに対し、「あすてらす(日常生活自立支援事業)」での支援の充実を図ります。
- ▶ 権利擁護に関する住民向けの講演会などへ参加できるように支援の方法について検討します。
- ▶ 行政と連携し、成年後見制度の活用及び体制づくりに努めます。

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
生活支援係	◆相談者の中で、権利擁護制度が必要な方に関しては、関係機関と連携しながら支援を進める。	◆成年後見制度の普及啓発のため、セミナーを実施した。	◆コロナの影響により、日程を延期し、人数制限をしたうえでの開催となった。参加者からは、理解が深まったとの声もあった。	◆住民への理解を広める機会は、今後も検討していく必要がある。成年後見制度の活用に向け、あすてらすとの連携強化を進めていく必要がある。	B	◆今後も支援の充実に努め、成年後見制度と、どのように連携できるのか検討していく。	継続
塩原支所地域福祉係	◆権利擁護に関する住民向けの講演会、説明会へ参加できるよう支援の方法について検討する。 ◆行政と連携し、成年後見制度の活用にあつめます。	◆成年後見制度利用のための支援を行った。現在も継続中。	◆支援した具体例が1件のため、今後、成功事例を重ねる。	◆丁寧な支援を継続すること。	B	◆具体的評価につながる支援実績ができつつある。	継続

③ 市民や関係団体

- ▶ 日頃の生活の中で認知症、生活困窮、孤立などから生じる異変や虐待に気づいた際には、行政、民生委員・児童委員、社協、地域包括支援センターなどに連絡します。
- ▶ 権利擁護に関する講演会などに参加し、制度への理解を深めます。

所管	R2実績
生活支援係	◆民生委員に地域で困っている人の情報提供をした。
塩原支所地域福祉係	◆認知症、生活困窮、孤立などから生じる異変等に気づいたときは、行政、自治会長、民生委員・児童委員に相談し、包括、社協等に対応してもらった。

令和2年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

基本目標 1 誰もが利用しやすい地域福祉の仕組みづくり

施策の方向性 3 福祉サービスの充実と権利擁護の推進

今後の取組 (4) 地域包括ケアシステムの構築の推進

① 行政

▶ 総市民・関係団体などと連携し、総合的な相談・支援体制の確立を目指す、地域包括ケアシステムの構築を推進します。

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部 (社会福祉課)	◆市民・関係団体などと連携し、地域包括ケアシステム構築のため、地域ケア会議、協議体、多職種連携会議により、協議、検討を行う。	◆那須地区単位で精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムについて検討している。 ◆本市における地域生活支援拠点整備（障害者の居住支援のための機能）について、関係機関と協議した。	◆本市における地域生活支援拠点の整備内容が概ね定まった（令和3年7月～実施の見込）	◆地域生活支援拠点整備については、スタート後も関係機関と協議しながら充実を図っていく。	C	◆市として包括的支援体制の協議が進んでいるが、各分野の地域資源を生かした支援体制の充実を図っていく必要があるため。	拡充
保健福祉部 (高齢福祉課)	◆市民、関係団体などと連携し、地域包括ケアシステムを推進するため、地域ケア会議、協議体、多職種連携会議により、協議、検討を行う。	◆地域共生社会の中で権利擁護制度を機能させる成年後見制度の利用促進の在り方について、地域包括ケア推進会議で議論を開始した。	◆権利擁護の利用が促進されることで、地域包括ケアシステムの機能強化に取り組み始めることができた。	◆地域包括ケア推進会議で議論し、地域で高齢者等の権利擁護を支援する体制を検討してく。	B	◆地域の関係者（自治会、民生委員、医療・介護・福祉関係者）と三士会（弁護士、司法書士、社会福祉士）による協議を開始できたため	継続

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
子ども未来部	<p>◆総合的な相談・支援体制の確立を目指す、地域包括ケアシステムの構築を推進する。</p>	<p>◆地域共生社会実現に向けて庁内会議を開催し、複合的な福祉課題について協議を行った。</p> <p>◆地域共生社会実現のシステム導入や情報共有の際のルールの検討を行った。</p> <p>◆関係機関の実務担当者から意見を聴取しながら、発達支援に関連する相談先を分かりやすく紹介するために「相談窓口ガイド」を作成し、窓口等に設置した。</p>	<p>◆実務担当者で構成する庁内会議、庁外関係者の会議等の開催により、部門横断的な情報共有が図られた。</p> <p>◆相談窓口ガイドの設置を行った。</p>	<p>◆相談内容に関連する諸制度や相談ニーズに対応するために、相談員等の知識、スキルの向上に努める。</p>	B	<p>◆総合的な窓口の設置がある程度実現するところとなり、計画の進捗が見えるが、達成とはなっていないため</p>	継続

② 社会福祉協議会

- ▶ 行政・市民・関係団体と連携し、地域包括ケアシステムの構築を推進します。

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域包括ケア推進会議等に参加し地域の課題を検討 ◆第2層協議体の設置推進 	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域包括ケア推進会議等に参加 ◆一部の地区で第2層協議体を設置した ◆課題解決に向けた話し合いの場を設けることができた 	<ul style="list-style-type: none"> ◆一部の地区で第2層協議体を設置した 	<ul style="list-style-type: none"> ◆第2層協議体の設置に向け、行政・地域包括支援センターと連携強化 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆行政、地域包括支援センターと連携し、地域包括ケアシステムの構築を推進した。 	継続
黒磯支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> ◆行政、市民、関係団体と連携し、地域包括ケアシステムを推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆公民館地区で地域課題についての話し合いを行った。 ◆協議体設置に向けた支援計画を作成し、地域支援を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域での話し合いの場を開催した。コロナ禍のため、予定していた回数話し合いができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆定期的な話し合いの場を増やす。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域での話し合いの場を開催できた。 	継続
塩原支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> ◆行政、市民、関係団体と連携し、地域包括ケアシステムを推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆コロナ禍のため、会合による地域支援会議が行われず、情報交換が不十分だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆オンライン会議体制の整備など、支援が必要な人を把握する手段の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ◆オンライン会議の開催も踏まえ、情報交換の機会を確保する。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ◆実績不十分。 	継続

③ 市民や関係団体

- ▶ 地域住民助け合い事業などを通じて、地域での問題の把握や解決方法の検討などに努めます。
- ▶ 地域ケア会議などの充実に努め、地域包括ケアシステムの構築を推進します。

所管	R2実績
地域支援係	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域ケア会議（会場やオンライン）に参加し、地域の課題について検討し、さらにその課題についての勉強会、検討会に参加した ◆地域で話し合いの場を設け、地域課題や情報交換をした
塩原支所地域福祉係	◆コロナ禍による活動自粛のため、地域包括ケア会議も書面でのやり取りで行われた。

令和2年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

基本目標 2 誰もが暮らしやすい生活環境づくり

施策の方向性 1 生活環境の充実

今後の取組 (1) 日常生活における移動手段の充実

① 行政

- ▶ ゆーバス、予約ワゴンバスなどの公共交通システムの現状を検証し、利便性の向上を図ります。
- ▶ 日常生活上の移動に関する支援体制の検討、充実を図ります。

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
市民生活部	<p>◆地域公共交通網形成計画を策定する。</p> <p>◆地域バスの運行経路、ダイヤを随時検討する。</p>	<p>◆ゆーバスは近隣市町のバスや鉄道との乗り継ぎ性を高め、利便性の向上を図った。</p> <p>◆ゆータクは2人以上での相乗り時のみ利用できる停留所を増設した。 (ゆーバス利用者数) H30：147,149人 R1：159,006人 R2：95,466人(R3.1末時点)</p> <p>(ゆータク利用者数) (H30.9までは予約ワゴンバス) H30：12,164人 R1：16,276人 R2：11,226人(R3.1末時点)</p>	<p>◆地域バス路線の再編により、需要のある西那須野駅・那須塩原駅・黒磯駅をつなぐ路線の便数を増やし、鉄道や民間バス、近隣市町のバスとの接続性を向上させたが、新型コロナウイルス感染症拡大により、利用者数が減少した。 ※令和3年1月までのゆーバス利用者数：95,466人(前年同期比：68.0%)</p> <p>◆乗車率を高めるため、2人以上であれば利用できるのりばを創設したが、新型コロナウイルス感染症拡大により、利用者数が減少した。 ※令和3年1月までのゆータク利用者数：11,226人(前年同期比：80.1%)</p>	<p>◆利用実績等の分析を行い、地域性に沿った運行形態を検討することで、利便性の向上に努める。</p> <p>◆近隣の市町と相互に協力をし行政界ではなく生活圏単位での公共交通網形成に取り組む。</p>	B	◆利便性の向上には取組めたが、利用者数が増加しなかったため。	継続

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部 (社会福祉課)	◆日常生活上の移動に関する支援体制の検討、充実にを図る。	◆法定サービスとして居宅介護（通院介助）、同行援護、行動援護を提供している。 ◆福祉タクシー券、車椅子タクシー券の交付している。 ◆地域生活支援事業として移動支援を実施している。 ◆タクシー利用券の交付 H30・・・1,829件 R1・・・1,907件 R2・・・1,881件見込	◆障害者の通院や買物などの日常生活における外出支援に寄与した。 ◆法定サービスの基準に該当しない方、地理的に移動が長距離となる方、サービス提供事業所がない地域の方は利用しづらくなってしまふ。	◆公共交通機関、コンパクトシティの在り方と連動し、移動手段の確保についても検討する。	B	◆市独自の事業としてタクシー券を交付し、コロナ下で外出自粛の影響はあるものの、障害者の通院や買物などの日常生活における移動支援に寄与した。	継続
保健福祉部 (高齢福祉課)	◆日常生活上の移動に関する支援体制の検討、充実にを図る。	◆高齢者タクシー利用券の交付 H30・・・2,348件 (H31.1末現在) R1・・・2,504件 (R2.1末現在) R2・・・2,551件 (R3.1末現在)	◆高齢者の通院や買物などの日常生活における外出支援に寄与した。 ◆対象高齢者の増加による補助経費の増加。	◆公共交通機関、コンパクトシティの在り方と連動し、移動手段の確保について検討を進め、経費の縮減策を検討する。	B	◆対象高齢者が増加しているが、移動困難高齢者に対する支援は概ね行えているため。	継続

② 社会福祉協議会

- ▶ 市や地域住民と連携し、自治会やコミュニティ単位で公共交通の効果的な利用方法などを検討する場づくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 地域の中で移動が困難な人の送迎や買い物、通院などの支援を行う住民主体の活動の支援の方法について検討します。

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係	◆地域の中で公共交通も含めた地域課題についての話し合いの場を設け、実践につなげていく	◆市民や関係機関が集い、交通問題検討会を5回実施。市の福祉部局だけでなく公共交通を担当する生活課とも情報共有した。 介護保険の総合事業との連動も含めて定期的開催している。 ◆市内で移動販売や生活支援をしている企業に同行し、実態把握を行った。	◆コロナ禍でも対策をとりながら、公共交通と住民主体の交通の在り方について議論ができた	◆実践に移行する時にはまちづくり関連の機関との連携や視点が必要になるため、そこでの協働が重要	B	◆福祉部局以外の部署との連携や市民活動団体と共に具体的な話し合いを実施した	継続
黒磯支所地域福祉係	◆地域の中で公共交通も含めた地域課題についての話し合いの場を設け、実践につなげていく	◆地域住民へのアンケート調査で、買い物や公共交通についての地域課題を把握した。	◆交通問題について地域課題が把握できた。	◆移動手段について、支援する方法を検討していく。	B	◆交通問題について地域課題が把握できた。	継続
塩原支所地域福祉係	◆市や地域住民と連携し、自治会やコミュニティ単位で公共交通の効果的な利用方法などを検討する場づくりの支援方法を検討する。	◆コロナ禍のため、地域住民との直接交流（意見交換）できず。	◆コロナ禍のような状況における移動の現状を確認する必要あり。	◆コロナ禍のような非常時でも移動手段を確保する方策を検討する。	C	◆実績なし。	継続

③ 市民や関係団体

- ▶ 自治会やコミュニティ単位で公共交通の効果的な利用方法などについて検討します。
- ▶ 移動が困難な人の送迎、買い物や通院の支援を検討します。

所管	R2実績
地域支援係	<ul style="list-style-type: none"> ◆にしなすケアネットから派生した交通問題検討会に参加し、課題共有や情報共有を行い、具体的に住民主体の移送方法を構想している ◆障害者事業所や介護保険事業所において、買い物代行などの生活支援を実施している ◆助け合いの活動の中で移動が困難な方の支援あるいは支援の方法について検討、実施している ◆移動販売を専門にあるいは事業として立ち上げ展開している
塩原支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> ◆会合の自粛により、話し合いの場は持たれなかったが、コロナ禍のような状況下での買い物支援を検討する必要性を感じた。

令和2年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

- 基本目標 2 誰もが暮らしやすい生活環境づくり
 施策の方向性 1 生活環境の充実
 今後の取組 (2) 安心・安全のための生活環境の充実
 ① 行政
- ▶ 公共施設のバリアフリー化の推進を図ります。
 - ▶ 安全のため、道路・交通施設の整備を推進します。
 - ▶ 道路管理者、警察、学校、PTAなどが連携し、通学路の安全対策を推進します。
 - ▶ 空き家、空き地の所有者に対して適切な管理を促します。

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
企画部	◆公共施設のバリアフリー化の推進を図る。(新庁舎建設を推進する。)	◆実績なし	◆那須塩原駅周辺まちづくりビジョン策定の為、新庁舎建設基本設計・実施設計は未実施。	◆新庁舎建設基本設計に早期に着手する。	D	◆未実施のため。	継続
総務部	◆施設の維持管理を実施	◆エレベーターの保守点検(エレベーターの運転状態、内装、照明、操作盤等の点検、外部への連絡装置の通話試験等)を3箇月に1回実施。 ◆新型コロナウイルス感染拡大防止のため、庁舎清掃業者による手すり等共用部の定期的な消毒作業を実施。	◆本庁舎のバリアフリー化については、多目的トイレ、身障者用駐車区画、正面玄関スロープ、エレベーター設置済み。安全に使用できるよう維持管理が必要。	◆定期的な点検を行い、不良個所の早期発見、対処を実施することで安全に使用することができる。	A	◆点検の結果、不具合なく良好であったためA評価とした。	継続

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
市民生活部	<p>◆那須塩原市通学路交通安全対策プログラムにおいて通学路の交通安全対策を行う。</p> <p>◆市民等から空き地の相談を受けた際に、空き地の所有者に対し相談者の希望を伝え、適切な管理を促す。</p>	<p>◆道路管理者、警察、学校と連携して、通学路の危険個所の対策を行った。</p> <p>安全対策件数（生活課分） R1：4件 R2：1件</p> <p>◆空き地対応件数（相談受付人数） H30・・・151 R1・・・173 R2・・・167（2/24現在）</p>	<p>◆令和元年度那須塩原市通学路交通安全対策プログラムを遂行し、通学路の交通安全対策を実施できたが、今後も継続して、関係機関と綿密な連携をとることが必要である。</p> <p>◆空き地の相談について相談者の要望を空き地の所有者に伝え、適切な管理を促した。</p>	<p>◆那須塩原市通学路交通安全対策プログラムにおける関係機関の連携を強化し、児童が安全に登校できる環境を整備する。</p> <p>◆民法・不動産登記法の改正案が示されたことで、空き地に対する市の関わり方について根本から検討する必要がある。</p>	A	◆計画どおり事業を遂行することができた。	継続
保健福祉部 (社会福祉課)	◆公共施設のバリアフリー化を推進する。	◆障害者からの意見や要望を随時聴取している。	◆障害者からの意見を聴取する機会はあるものの、設計書が完成してしまうと設計変更は困難になってしまう。	◆公共施設の建設については、設計段階で障害者から意見を聴取する機会を設ける。	B	◆ユニバーサルデザインの普及により、バリアフリー化が推進されているため。	継続
保健福祉部 (高齢福祉課)	◆公共施設のバリアフリー化を推進する。	◆高齢者施設のバリアフリー化について、継続して検討。	◆高齢者施設の不便箇所の有無については、概ね支障がないものと確認できた。	◆高齢者施設の不便な箇所のバリアフリー化改修を行い、利用しやすい施設とする。	B	◆現在は、不具合箇所等の改善要望がないため。	継続
子ども未来部	◆公共施設のバリアフリー化の推進を図る。	<p>◆放課後児童クラブ建設の際、玄関入口のスロープ設置、児童室床のバリアフリー化、多目的トイレの設置など利用者支援に努めている。</p> <p>【R2公設児童クラブ建設】 青木小児童クラブ 稲村小第2児童クラブ</p>	◆今年度建設した施設でバリアフリー化が図られた。	◆バリアフリー化が図られていない既存施設についての対応。	A	◆バリアフリー化が推進できたため。	継続

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
産業観光部	<p>◆青木ふるさと物産センターの建替を実施する。 (R1~R3) <R1~R2> ▶建替に向けた基本方針の整理 <R3> ▶施設建替のための基本設計 【参考】<R4~R5> ▶実施設計、工事 ◆観光地公衆トイレを順次洋式化する。</p>	<p>◆青木ふるさと物産センターの建替については、基本方針の策定中である。より良い施設にするため有識者の意見を聴くなどスケジュールを見直した。 ◆観光地公衆トイレについては、木の俣橋園地公衆トイレの洋式化(3器)を実施した。</p>	<p>◆バリアフリーを考慮し基本方針を整理する必要がある。 ◆和式のみ公衆トイレについて洋式化し、高齢者や障がい者にもやさしい観光地として、環境改善が図られた。</p>	<p>◆バリアフリー化の視点を踏まえて基本方針を整理する。 ◆洋式が一つもない公衆トイレはなくなったが、一部和便器が残るため、経年劣化等を考慮し交換を実施する。</p>	A	<p>◆基本方針の整理を進めることができた。全体スケジュールを改善した。 ◆計画どおり事業を実施できた。</p>	継続
建設部	<p>◆歩道の整備を実施することにより、地域における生活空間の安全確保を図る。 ◆児童の通学路を整備することにより、児童の安全を確保できる。 【実施路線(目標)】 14路線 ◆所有者等に空き家等の適正管理を促す。</p>	<p>◆通学路交通安全対策プログラム計上箇所 22箇所対策実施 ◆歩道整備(黒磯西岩崎線ほか) 【実施路線】(用地取得等含む) H30...15路線 R元...17路線 R2...14路線 ◆市民等からの空き家等の相談を空き家等の所有者に通知及び電話等で連絡した。 相談件数:36件(2/末時点)</p>	<p>◆通学路交通安全対策プログラム(道路管理者、警察、教育委員会、学校、PTA連携)による、通学路安全対策推進 ◆歩道の整備 ◆空き家等の相談内容を空き家の所有者に伝え、適切な管理を促した。</p>	<p>◆毎年度の予算に合わせた整備推進 ・通学路交通安全対策プログラム計上箇所 ・歩道整備路線(道路改良路線も含む) ・空き家等は所有者等が自ら適正に管理する。</p>	A	<p>◆令和2年度予算分の事業が予定通り実施できたため。 ◆計画(空き家対策)を遂行できた。</p>	継続

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
西那須野支所	◆バリアフリー化に向けた調査・検討、実施	◆庁舎1階身障者用トイレの引戸の修繕を行った。	◆トイレの引戸は健常者でも重たい動作であったが、修繕後片手でも軽い動作で開くようになり身障者への負担が軽減された。	◆施設の経年劣化による不具合については随時対応する。また、庁舎内の物の配置等にも利用者に不便を掛けないため、是正すると共にニーズに合った施設のあり方の検討及び調査を行っている。	B	◆庁舎周辺は概ねバリアフリー化されているが、今後も施設の経年劣化に伴い、是正を行っていく必要があるため。	継続

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
教育部 (教育総務課、 学校教育課、 生涯学習課、 スポーツ振興 課)	<ul style="list-style-type: none"> ◆施設改修工事に併せ施設のバリアフリー化 ◆施設のバリアフリー化の推進として、予算内で施設の使いやすさを工夫する。 ◆道路管理者、警察、学校、PTAなどと連携し、通学路の安全対策を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆公共施設のバリアフリー化 <ul style="list-style-type: none"> ・学校トイレのバリアフリー化 (波立小、青木小、三島小、南小、西小、西那須野中) ◆通学路の安全対策 <ul style="list-style-type: none"> ・危険箇所調査の実施(8～9月) ・通学路安全推進会議の開催 (R3.2書面開催) ・対策箇所一覧表を市ホームページで公表 (R3.3公表予定) ◆那須塩原市図書館整備での身障者駐車場・思いやり駐車場、スロープ及び多目的トイレの整備によるバリアフリー化 ◆くろいそ運動場武道館トイレの洋式化(0→3) ◆にしなすの運動公園屋外トイレの洋式化(1→9) ◆三島体育センター屋外トイレの更新(多目的トイレ新設) ◆くろいそ運動場体育館入口扉の引き戸(スライド式)への改修 	<ul style="list-style-type: none"> ◆トイレ洋式化改修工事において、床モルタル打設工事の実施により、床段差解消が図られた。 ◆施設数が多いため、計画的、継続的な施設のバリアフリー化が必要であり、多額の費用を要する。 ◆通学路交通安全対策プログラムに基づく取組により、関係機関が連携した安全対策の推進を図ることができた。 ◆那須塩原市図書館整備に伴うバリアフリー化により、開館時から利用しやすい環境を来館者に提供することができた。 ◆体育施設の改修工事に併せたバリアフリー対策が図られた。 ◆施設全体のバリアフリー化については時間と費用を要することになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆各施設でバリアフリー化の推進を図るのではなく、公共施設全体でのバリアフリー化整備計画策定の検討が必要である。 ◆バリアフリー化の推進には、ソフト面の対応も重要であり、職員や施設利用者の他者への配慮、思いやりなどの「気づき」を心がけていく必要がある。 ◆通学路安全対策の取組については、PDCAサイクルとして継続的に実施する必要がある。 ◆バリアフリー化の推進には、ソフト面の対応も重要であり、職員や施設利用者の他者への配慮、思いやりなどの「気づき」を心がけていく必要がある。 ◆各施設でのバリアフリー化の推進を図るのではなく、公共施設全体でのバリアフリー化整備計画策定の検討が必要である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆施設の改修工事等に併せバリアフリー化が図られた。 ◆通学路安全対策については目標とする取組がおおむね実施できている。 ◆施設整備時に併せバリアフリー化が図られた。 ◆施設の改修工事等に併せバリアフリー化が図られた。 	継続

② 社会福祉協議会

- ▶ 行政と連携を図りながら地域の中でのバリアフリー化を推進します。
- ▶ 地域住民の安心・安全に向けた活動を支援します。

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係	<ul style="list-style-type: none"> ◆バリアフリーの場所を地域に伝える ◆地域住民の活動への支援を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ボランティア団体や市民活動団体へボランティア保険加入を勧めた ◆福祉協力店の情報をホームページに掲載し、そこにバリアフリーであるかどうかの情報も掲載した ◆当事者会と連携し、知的障がい・発達障がい啓発を行った 	<ul style="list-style-type: none"> ◆知的障がい・発達障がいの啓発活動を3回実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆バリアフリー化を考える際には当事者や多様な機関との連携が必要。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆コロナ禍で積極的な交流や活動は出来なかったが、可能な限り実施した 	継続
黒磯支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> ◆バリアフリーの場所を地域に伝える ◆地域住民の活動への支援を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域ケア会議にて、買い物をする店舗のバリアフリー等に関するマップの作成について協議した。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆店舗におけるバリアフリーの状況について情報共有できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆マップを作成し、市民へ情報提供する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域のバリアフリーの状況について協議できた。 	継続
塩原支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> ◆行政と連携を図り、地域の中でバリアフリー化を推進する。 ◆地域住民の安心、安全に向けた活動を支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆コロナ禍のため、自治会等活動が自粛となり、安心のために加入したボランティア活動保険も多くが解約となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆コロナ禍における住民活動を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域住民との意見交換が必要。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ◆実績不十分。 	継続

③ 市民や関係団体

- ▶ 市の補助制度を活用した、自治公民館のバリアフリー化を検討します。
- ▶ 交通ルールの遵守やマナーの向上に努めます。
- ▶ 普段から近所同士で声をかけ合い、支援が必要な世帯への気配りを行います。
- ▶ 草刈りや除草活動を通じ、通学路の環境保全に努めます。

所管	R2実績
地域支援係	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域住民助け合い事業を進めている ◆スクールガードや子どもの見守り、通学路の危険箇所の確認などを行っている
塩原支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> ◆これまで行ってきた、老人クラブや自治会による清掃といったボランティアの奉仕活動は自粛した。

令和2年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

基本目標 2 誰もが暮らしやすい生活環境づくり

施策の方向性 2 防災・防犯体制の充実

今後の取組 (1) 地域における防災体制の充実

① 行政

- ▶ 地域の防災リーダーの養成・育成の充実に努めます。
- ▶ 自主防災組織の結成や活動を支援します。
- ▶ 地域での防災のため情報の集め方、情報の共有と活用のためのルールづくりをします。

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
総務部	<ul style="list-style-type: none"> ◆防災士養成事業及び防災士資格取得者研修会の実施 ◆自主防災組織育成支援補助金の交付 ◆自主防災組織結成の支援 ◆地域における防災情報の集め方、情報の共有と活用のためのルールづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ◆防災士研修会を予定していたが、新型コロナウイルス感染症対策予算確保のため中止 ◆自主防災組織の結成、事業運営、資機材等整備に対し補助金を交付した。 ◆市内で初となる地区防災計画策定に取り組み、2月に完成した。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆市内で初となる地区防災計画を策定した。 ◆自主防災組織の結成率が目標に至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域の防災リーダーとしての防災士のフォローアップ研修を実施する。 ◆自主防災組織未結成自治会への個別支援を強化する。 	B	◆自主防災組織の活動や地区防災計画策定に対する支援を実施することができた。	継続
保健福祉部 (社会福祉課)	<ul style="list-style-type: none"> ◆避難行動要支援者支援制度の改訂したマニュアルを周知し、制度の推進を図る。 ◆自治会、民生委員、関係機関への要支援者名簿の配布 	<ul style="list-style-type: none"> ◆新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、説明会を開催せず、マニュアルの配布のみを行った。 ◆自治会長、自治会役員、民生委員、関係機関に要支援者名簿を配布した。 ◆名簿掲載への同意の際に、災害時の他、地域による見守り等日頃の支援についても明記している。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆制度の見直しにより自治会ごとに取り組みやすくなった。 ◆多くの自治会において地域の見守り等において要支援者名簿を活用している。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆制度の活用を図るため、自治会役員等だけでなく、地域住民の理解を促進する必要がある。 ◆防災、見守り等他の事業との整合をとる必要がある。 	B	◆制度の認知と活用は徐々に進んでいる。	継続

② 社会福祉協議会

- ▶ 地域の中で地域住民が普段から近隣と交流を持ち、災害時には支援を必要としている人の手助けができるような体制づくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 地域住民が行う自主防災組織や防災訓練などの活動に対する支援の方法について検討します。
- ▶ 地域の中での防災情報の共有や活用方法などのルールづくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 災害時における災害ボランティアセンターの設置・運営を行い、ボランティア活動を支援します。

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係	◆避難行動要支援者、自主防災組織と地域住民助け合い事業との連携強化	◆地域住民助け合い事業を推進していく中で、普段のつながりが災害時の支援にもつながることを啓発している ◆地域住民から助け合い事業が避難行動要支援者や自主防災組織等と連携した取組をしている自治会への支援を行った	◆コロナ禍で積極的な地域内の交流や防災の活動などが実施できなかった地区がほとんど。心配な方への訪問は絶やさなかった	◆コロナの影響で改めて日頃のつながりの重要性が理解された。新しい生活様式の中での防災体制を構築していく時期	B	◆コロナ禍で集まることは難しくなったが、訪問に切り替えることなどを勧めた	継続
黒磯支所地域福祉係		◆公民館地区の自治会長が集まり、防災に関する話し合いを行った。	◆各地区の防災に関する取組みについて、情報共有することができた。	◆日常の見守り活動と、災害時の支援を一体的に取り組めるよう支援する。	B	◆地域の防災体制について、検討することができた。	継続
塩原支所地域福祉係	◆地域の中で地域住民が普段から近隣と交流を持ち、災害時には支援を必要としている人の手助けができるような体制づくりの支援方法について検討する。 ◆自主防災や防災訓練などの活動支援方法を検討する。	◆コロナ禍のため、防災訓練等を行うことも自粛となった。	◆コロナ禍という非常事態においては、尚更、防災情報を共有すべき。	◆防災情報を共有する方法を検討する。	C	◆実績なし。	継続

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
総務・経理係	◆BCP（事業継続計画）研修に担当者が参加し、本会独自にBCP研修会を実施。	◆コロナ禍で、予定していた訓練等が行えなかった。	◆新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため、訓練や研修を中止した。	◆災害はいつ起こるかわからないので、どんな状況でも対応できるようシミュレーションが必要であった。	D	◆新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止を優先し、訓練や研修を中止した。	継続
ボランティアセンター	◆中高生ボランティアサマースクールのプログラムに災害についての体験をいれ、災害について学ぶ。	◆コロナ禍の影響により災害ボランティアの講座等を行うことはできなかった。 反面、ZOOMなどの活用が増えたため災害時等の関係機関との連絡方法としてのスキルが身に付いた。	◆災害時におけるボランティア活動の支援。	◆防災に関する啓発は継続していくことが必要。	B	◆コロナ禍の影響により活動ができない状況だったため正確な評価はできない。	継続

③ 市民や関係団体

- ▶ 普段から近隣と交流を持ち、災害時には支援を必要としている人の手助けができるような体制づくりに努めます。
- ▶ 自主防災組織へ全戸参加できるように努めます。
- ▶ 定期的な防災訓練の実施に努めます。
- ▶ 防災のための情報の共有や活用方法などについてのルールづくりをします。

所管	R2実績
地域支援係	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域住民助け合い事業や避難行動要支援に取り組み、災害時の体制づくりを行っている ◆コロナ禍で集合しての防災訓練等は実施できなかった。地震発生時には地域内の心配な世帯の安否確認を行った
塩原支所	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域における自主防災訓練等の活動は、自粛となった。

令和2年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

基本目標 2 誰もが暮らしやすい生活環境づくり

施策の方向性 2 防災・防犯体制の充実

今後の取組 (2) 地域で取り組む防犯活動の充実

① 行政

- ▶ スクールガードの組織の充実を図り、子どもを犯罪から守ります。
- ▶ 自主防犯組織の結成や活動を支援します。
- ▶ 悪徳商法などの消費者トラブルに遭いやすい高齢者などを被害から守るため、関係機関や団体と連携し地域や家庭の見守り力の向上を推進します。

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
教育部 (学校教育課)	◆各学校で学校安全ボランティアを組織してもらおう。	◆保護者、地域住民等と連携し、市内小学校を中心に、学校安全ボランティアを組織している。登下校等の際の見守りや安全指導に当たってくれている。	◆各校とも工夫して学校安全ボランティアを組織しているが、人材確保が大きな課題である。学校によっては、保護者のみの登録もあり、保護者の負担が大きい。	◆保護者はもちろんのこと、高齢者や地域住民等、地域と連携した持続可能な組織が今後の課題である。よりよい連携のためにも、引き続き、保険加入等の行政の支援を行っていく。	B	◆学校安全ボランティアによる見守りは定着してきているが、さらに地域への啓発及び地域との連携が必要である。	継続

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
市民生活部	<p>◆自主防犯組織の結成や活動を支援する。</p> <p>◆高齢者本人及び高齢者を見守る立場の人たちへの啓発を行う。</p> <p>◆特殊詐欺撃退機器無償貸与事業を実施する。</p>	<p>◆自主防犯団体について、活動支援補助金の補助実績</p> <p>H30・・・9団体、計661,934円</p> <p>R1・・・4団体、計301,896円</p> <p>R2・・・2団体、計129,900円（見込み）</p> <p>◆消費生活相談員による出前講座等、情報提供実績</p> <p>【出前講座実施数】</p> <p>H30・・・22回、524名</p> <p>R1・・・17回、378名</p> <p>R2・・・コロナの為実績なし</p> <p>◆【公民館高齢者学級での啓発回数（ちよい耳）】</p> <p>H30・・・11回、326名</p> <p>R1・・・13回、336名</p> <p>R2・・・コロナの為実績なし</p> <p>◆【HP及びみるメールでの情報発信数（消費生活関連）】</p> <p>H30・・・31回（みるメール回数）</p> <p>R1・・・42回（みるメール37回）</p> <p>R2・・・59回（みるメール10回）（2/24現在）</p> <p>・【Twitterでの情報提供】</p> <p>R2（12～）・・・69回（2/24現在）</p> <p>◆【特殊詐欺撃退機器の貸与状況】</p> <p>H30・・・70名（新規受付：44名）</p> <p>R1・・・75名（新規受付：30名）</p> <p>R2・・・72名（新規受付：7名）（R3.2月末）</p>	<p>◆補助団体数・補助額ともに前年度を下回ったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため集団活動が制限され地域の防犯活動が制限されたためと思われる。</p> <p>◆新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、講座、セミナー及び店頭啓発を実施することができなかった。併せて緊急以外のみのメールの自粛を求められたが、HP更新やよりリアルタイムに情報提供可能なTwitter開設により対応を行った。</p> <p>◆撃退機器貸与により被害防止を図ることができた。</p>	<p>◆自主防犯活動支援補助金について、自主防犯団体のアフターコロナの活動を踏まえ、団体の意見を取り入れながら必要に応じて、再検討を進める。</p> <p>◆家庭での見守り力を強化するため、様々な情報提供方法を検討する。</p>	B	<p>◆講座・セミナーなどの啓発活動を行うことはできなかったが、新たな情報提供ツール（Twitter）を導入し、対応した。</p>	継続

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部 (高齢福祉課)	<p>◆悪徳商法などの消費者トラブルに遭いやすい高齢者などを被害から守るため、関係機関や団体と連携し地域や家庭の見守り力の向上を推進する。</p> <p>◆市内8か所に設置した地域包括支援センターによる総合相談を実施する。</p>	◆地域包括支援センターでの総合相談の中で、高齢者への啓発及び見守りを実施した。	◆地域包括支援センターが高齢者からの相談を受け、消費者トラブルの被害から守ることができた。	<p>◆関係機関と連携を強化していく必要がある。</p> <p>◆日頃からの付き合いなどを通じた、地域の連帯に基づくさらなる防犯力の向上が求められる。</p>	B	◆民生委員、見守り活動実施自治会等の地域との連携し、被害防止体制が構築されてきているため	継続

② 社会福祉協議会

- ▶ 地域におけるスクールガードや防犯パトロールの仕組みづくりの支援の方法について検討します。

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係	◆地域におけるスクールガードや防犯パトロールの仕組みづくりの支援の方法について検討する	◆地域内の話し合い時に、登下校時の見守り活動をする担い手不足が全体的な課題になっていることが分かった ◆地域内の話し合いで地域で子どもを見守る視点が必要という声が挙がった	◆コロナ禍で子どもへの見守りやパトロール活動が積極的に行えなかったよう	◆子ども、高齢者など対象を分けずに見守り活動を地域全体で行う視点が必要	B	◆自治会やコミュニティの話し合いで地域全体で防犯について考えることができた	継続
黒磯支所地域福祉係	◆地域におけるスクールガードや防犯パトロールの仕組みづくりの支援の方法について検討する	◆自治会での防犯パトロール活動に参加し、取り組みについて把握をした。	◆地域内のスクールガードや防犯パトロールの状況把握し、連携・支援を行う。	◆地域の活動について情報を共有し、連携をとっていく。	B	◆地域での取り組みについて把握をした。	継続
塩原支所地域福祉係	◆地域におけるスクールガードや防犯パトロールの仕組みづくりの支援の方法について検討する	◆特に、小学部児童については、スクールバスによる登下校が行われている。	◆実施できていない。	◆まず、学校から防犯の現状について聞き取りを行う。	D	◆実績なし。	改善

③ 市民や関係団体

- ▶ 近所同士で日頃から声かけや目配りをし、不審者の出入りに注意します。
- ▶ 地域ごとに防犯パトロールの仕組みづくりを検討します。
- ▶ スクールガードの組織の充実を図り、子どもを犯罪から守ります。
- ▶ 周囲に消費者トラブルの被害が疑われる人がいる場合には、消費生活センターなどの相談機関へつなぎ、被害の未然防止・早期発見・拡大防止を図ります。

所管	R2実績
地域支援係	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域住民助け合い事業において声かけや見守りを行い、防災・防犯活動につながっている ◆声かけや見守り、普段の会話の中から消費者トラブルの防止・早期発見につながっている ◆スクールガードや防犯パトロールを実施している ◆コロナ禍で訪問での声かけが難しいので電話連絡に切り替えたが、給付金等の詐欺が増加した影響で電話に出ない方が多かった
塩原支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> ◆スクールガードの組織はないが、地域住民による声掛け、見守りが行われている。

令和2年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

- 基本目標 2 誰もが暮らしやすい生活環境づくり
 施策の方向性 2 防災・防犯体制の充実
 今後の取組 (3) 災害時における避難行動要支援者への支援体制の充実
 ① 行政
 ▶ 自主防災組織や地域見守り組織と連携し、見守り体制を充実します。
 ▶ 避難行動要支援者の個別計画の作成を推進します。

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
総務部	◆自主防災組織の結成促進、活動支援	◆避難行動要支援者に対する支援において大きな役割を担う自主防災組織の結成、事業運営、資機材等整備を支援するために補助金を交付した。 ◆自主防災組織未結成の自治会を対象に、組織の結成や自主防災活動に関する資料を送付した。	◆自主防災組織が結成されていない自治会がまだあり、結成されている組織においても、コロナ禍の影響で思うような活動が出来なかった。	◆組織の結成や活動に対する費用補助を継続する。 ◆自主防災活動が地域差なく、活発に行われるよう支援する。	B	◆自主防災組織の活動に対する支援を実施することができた。	継続

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部 (社会福祉課)	<p>◆避難行動要支援者の個別計画の作成を推進する。</p> <p>◆避難行動要支援者支援制度を推進し、自主防災組織や地域見守り組織と連携した見守り体制を充実させる。</p>	<p>◆マニュアルを改訂し、地域の状況に応じて段階的に取り組めるようにした。</p> <p>◆新型コロナウイルス感染拡大防止のため、個別計画の作成を見合わせ、同意者名簿に連絡先を入れることで対応した。</p> <p>◆制度の更なる活用を図るための庁内関係課との協議を実施</p> <p>【個別計画作成率】 H30・・・57.2% R元・・・55.3% R2・・・57.3%</p>	<p>◆マニュアルの改訂によって地域の状況に応じて段階的に取り組めるようにした。</p> <p>◆地域の現状に則した制度設計が必要（今後出される国の新たな指針により）</p>	<p>◆制度の理解促進と制度の活用（要支援者の支援体制の確保）</p> <p>◆個別計画の作成方針など新たな国の指針に対応した制度設計</p>	B	<p>◆代替策により制度を推進した。</p> <p>◆今後新たな制度設計が必要</p>	改善
保健福祉部 (高齢福祉課)	<p>◆避難行動要支援者支援制度を推進し、自主防災組織や地域見守り組織と連携した見守り体制を充実させる。</p>	<p>◆公立公民館区に地域支え合い推進員の配置し、地域の困りごとなどの把握、解決に向けた話し合いを行いながら、見守り助け合う地域づくりに取り組んだ。</p> <p>◆見守り活動等を実施した自治会数 H30…73 R1…84 R2…111(R3.1月末)</p>	<p>◆見守り活動を実施する自治会の増加により、地域で見守り合う体制を拡充することができた。</p>	<p>◆普段から、見守り等の助け合いによる地域とすることで、緊急時や災害時の互助による支援体制を構築する。</p>	A	<p>◆見守り活動を実施する自治会数が増えたことで地域で見守り合う体制を拡充することができたため。（第7期高齢福祉計画値R2 90箇所）</p>	継続

② 社会福祉協議会

- ▶ 各地域の状況に応じた自主防災組織や見守りの体制づくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 地域における災害時の情報収集、要支援者の把握、避難誘導などについて支援します。

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係	◆地域住民助け合い事業を通して支援していく	◆助け合い事業において地域にあった支え合いの方法を一緒に検討している ◆コロナ禍で日頃からのつながりが減った中でも、地震が起きた際に安否確認に回った地区がいくつもあった	◆コロナ禍で今までのように集うことが難しくなり、日頃からの関係性を深める機会が減った	◆災害時や助け合いの取り組みは一体的に行っていく必要があるため、市や社協などの関係機関も一体的な支援が必要	B	◆助け合い事業で周知してきた日頃の関係性がコロナ禍や地震発生時の動きにつながった	継続
黒磯支所地域福祉係	◆地域住民助け合い事業を通して支援していく	◆地域住民が災害について話し合う場を設けた。 ◆災害時の避難と日常の見守りを一体的に取り組みよう支援した。	◆地域住民が互いに情報交換を行い、防災等の取り組み方法を検討することができた。	◆まだ防災・見守りの体制が整備されていない地区への支援を行う。	B	◆防災や見守りの方法について検討した。	継続
塩原支所地域福祉係	◆各地域の状況に応じた自主防災組織や見守りの体制づくりの支援方法について検討する。 ◆地域における災害時の情報収集、要支援者の把握、避難誘導などについて検討する。	◆コロナ禍による会合自粛のため、旧来の見守りを維持した。	◆コロナ禍という非常時での防災・防犯体制ができていないとはいえない。	◆コロナ禍のような非常時でも避難行動要支援者の支援体制を整備・維持する方法を検討する。	C	◆実績不十分。	継続
総務・経理係	◆市総合防災訓練に参加する。	◆コロナ禍で、予定していた訓練等が行えなかった。	◆新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため、訓練や研修を中止した。	◆災害はいつ起こるかわからないので、どんな状況でも対応できるようシミュレーションが必要であった。	D	◆事業の未実施	継続

③ 市民や関係団体

- ▶ 各地域の状況に応じた自主防災組織や見守り体制の充実に努めます。
- ▶ 災害時の情報収集、要支援者の把握、避難誘導などについて検討します。

所管	R2実績
地域支援係	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域の状況や特徴を踏まえて地域ごとに自主防災組織・見守り体制の充実に努めている ◆助け合い事業・避難行動要支援者からの情報を集約し、支援体制の充実に努めている ◆避難行動要支援者支援制度運用に関して、自治会と民生委員児童委員が連携して個別計画作成や日頃の見守りなどを行った
塩原支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> ◆自主防災活動は行われなかったが、従来の見守りが行われている。

令和2年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

- 基本目標 2 誰もが暮らしやすい生活環境づくり
 施策の方向性 3 地域での居場所づくり、活躍の場づくり
 今後の取組 (1) 地域での居場所づくり
 ① 行政

- ▶ 子どもの遊び場となる公園などの適切な管理、整備を図ります。
- ▶ 放課後児童クラブ、子育てサロン、生きがいサロンの充実・活性化を図ります。
- ▶ 子どもや高齢者などの地域での居場所づくりを行っている任意団体への支援策を検討します。
- ▶ 福祉活動の場としての空き家の活用を検討します。

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部	(居場所づくり) ◆生きがいサロン推進事業の実施 ◆元気アップデイサービス事業の実施 ◆シニアセンターを拠点とした居場所づくり ◆いきいき百歳体操(空き家活用) ◆福祉活動の場としての空き家の活用を検討する。	(居場所づくり) ◆生きがいサロン運営支援 H30・・・60箇所 R1・・・61箇所 R2・・・39箇所 ◆元気アップデイサービス H30・・・26コース R1・・・25コース R2・・・24コース ◆いきいき百歳体操 H30・・・36箇所 R1・・・43箇所 R2・・・44箇所	(居場所づくり) ◆生きがいサロン等の実施団体や参加者の増加を図る。 ※R2はコロナ禍で自由に活動が行えなかった。	(居場所づくり) ◆生きがいサロン等の内容をPRし、実施団体や参加者の増加を目指す。 ◆コロナ禍で開催する場合の対策や、開催時間の短縮など工夫しながら、サロンが開催できるよう指導・支援を行う。	B	(居場所づくり) ◆高齢者の閉じこもり防止、孤立防止及び介護予防に一定の効果があった。 (空き家活用) ◆空き家活用の検討継続。	継続
建設部	◆市単独事業として引き続き公園施設の更新を行い、安全で、快適な利用を図るとともに、長寿命化による維持管理費の縮減を図る。	◆鳥野目河川公園、八汐第2公園、南町児童公園、烏ヶ森公園、黒磯公園の公園施設の更新を予定していたが、新型コロナウイルス感染症対応のために、予算を皆減とした。	◆予算を皆減し、更新工事を実施しなかった。	◆次年度以降、引き続き必要な更新工事を実施し、安心安全な都市公園を維持する。	D	◆予算を皆減し、更新工事を実施しなかったため。	継続

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
子ども未来部	<ul style="list-style-type: none"> ◆子育てサロンの充実を図る。 ◆子どもの居場所づくりとして、要支援児童放課後応援事業をNPO法人に委託、支援する。 ◆放課後児童クラブの充実・活性化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆子育てコミュニティ広場の運営 ◆公設民営児童クラブ（25クラブ）、民設民営児童クラブ（22クラブ）合計47クラブ（3月末現在） （児童クラブ数） H30 39クラブ R1 44クラブ R2 47クラブ ◆子育てサロン、つどいの広場の実施 ◆要支援児童放課後応援事業（2か所）の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ◆公設2クラブを整備し、民設1クラブも増えた。 ◆コロナ禍においても子育てサロンで遊び場の提供や子育て相談等を行うことで、子育て家庭の孤立化を防ぎ、家庭における子育てへの支援につながった。 ◆要支援児童放課後応援事業を実施することで、学校休校時においても、要支援児童の見守りができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆第2期子ども・子育て未来プラン及び第2期放課後児童クラブ整備計画に沿って引き続き子育て環境の充実に努める。 ◆研修会に参加し、継続的なスキルアップを図る。・家庭の状況に応じた支援の検討。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆放課後児童クラブの着実な運営により、保護者の仕事と子育ての両立支援が図られている。 ◆子育て家庭の孤立化を防ぎ、家庭における子育てへの支援につながった。 ◆学校休校時においても、要支援児童の見守りができ、虐待を未然に防ぐことができた。 	継続

② 社会福祉協議会

- ▶ 地域の中で子どもや高齢者の居場所づくりを支援します。
- ▶ 地域の中で空き家を福祉活動の場として活用できるよう支援の方法について検討します。

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係	<ul style="list-style-type: none"> ◆子どもや高齢者の居場所づくりを支援する ◆地域の中で空き家を福祉活動の場として活用できるよう支援の方法について検討する 	<ul style="list-style-type: none"> ◆NPOや市民団体が実施する子どもの居場所の運営支援や食糧支援を行った ◆新しい生活様式の中での高齢者の集いの場の在り方の相談対応や運営支援を実施した 	<ul style="list-style-type: none"> ◆コロナ禍をきっかけに食料支援などを通して市内の子どもの居場所とのつながりやネットワークが強固になった 	<ul style="list-style-type: none"> ◆全世代において居場所づくりは重要であるため、地域内の連携だけでなく、市・社協のスムーズな連携が必要 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆活動自粛期間中もできることを考え、関係性を切らさなかった 	継続
黒磯支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> ◆子どもや高齢者の居場所づくりを支援する ◆地域の中で空き家を福祉活動の場として活用できるよう支援の方法について検討する 	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域包括支援センター、地域住民とオレンジカフェの開催について協議した。 ◆コロナ禍での居場所の開催について相談支援を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆新たな居場所の開催に向けて検討した。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域の特性に合った居場所づくりを支援していく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆新たな居場所の開催に向けて検討した。 	継続
塩原支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域の中で子どもや高齢者の居場所づくりを支援する。 ◆地域の中で空き家を福祉活動の場として活用できる支援方法について検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆コロナ禍のため、行政からの要請にしたがって、サロン等の集まりは全面的に休止された。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆活動自粛の結果、居場所が休止され、フレイル等高齢者の健康障害が危惧された。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆フレイル等を予防する家庭での活動普及。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ◆実績なし。 	継続

③ 市民や関係団体

- ▶ 子育てについて気軽に話し合える場づくりを検討し、できることから行います。
- ▶ 放課後や休日など一人にいる子どもなどが集まることができる場所づくりを検討し、できることから行います。
- ▶ 子育てサロンなどの開設に向けて検討します。
- ▶ 高齢者が集まることができる場所づくりを検討し、できることから行います。
- ▶ 空き家を福祉活動の場として活用できるよう検討します。

所管	R2実績
地域支援係	<ul style="list-style-type: none"> ◆自治会独自で子育てサロンを実施している ◆生きがいサロンやいきいき百歳体操などを実施している。 ◆趣味やサークル活動を自治公民館などで行っている ◆公民館や福祉施設の空きスペースにてケアラズカフェや居場所づくりを実施している ◆子ども食堂を実施し、多世代が集える居場所を実施している ◆コロナ禍で緊急事態宣言等による自粛期間があり、集うことが困難な時期が多かった。心配な方・世帯への訪問や子育て世帯へのお弁当配布などを行った
塩原支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> ◆特に、高齢者の生きがいサロンや集まりは自粛した。

令和2年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

- 基本目標 2 誰もが暮らしやすい生活環境づくり
 施策の方向性 3 地域での居場所づくり、活躍の場づくり
 今後の取組 (2) 地域での活躍の場づくり
 ① 行政
 ▶ ボランティア活動などを通じて、地域における子どもの活動の場を増やします。
 ▶ スクールガードや見守り活動など、地域における高齢者の活躍の場を増やします。
 ▶ 障害者の働ける場の確保に努めます。

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
総務部	◆職員採用における障害者枠の設置	◆採用者0名 (R3年4月1日付け)	◆法定雇用率の確保 (H29まで2.3%→ H30から2.5%に引上げ)	◆毎年計画的に採用する必要がある。	A	◆採用には至らなかったが、法定雇用率は確保できる見込みである。	継続
保健福祉部 (社会福祉課)	◆障害者の働ける場を確保する。	◆障害者枠での就労を希望する方の手帳取得を支援した。	◆障害者の法定雇用率の改定や就労系サービスの充実により、一般就労・福祉的就労の場は増えている。	◆室内での単純作業や複雑な作業工程、屋外での農作業や清掃作業等、障害者の特性や能力に応じ、就労先を幅広く確保することが課題である。	B	◆障害者の就労機会は増加しているため	継続

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部 (高齢福祉課)	<p>(高齢者の活動の場)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆老人クラブの活動支援 ◆シルバー人材センターの活動支援 ◆生涯学習、スポーツ、レクリエーション活動の場の提供 ◆介護支援ボランティアポイント事業の推進 ◆地域づくり型介護予防サポーター養成事業 ◆シルバー大学校同窓会会員との連携 ◆生涯現役応援体制の構築 	<p>(高齢者の活動の場)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆老人クラブ運営支援 H30・・・55箇所 R1・・・53箇所 R2・・・51箇所 ◆老人クラブ連合会スポーツ大会運営支援(※コロナにより未開催) ◆シルバー人材センター活動支援 ◆シルバー作品文化祭開催(※コロナにより未開催) ◆介護支援ボランティア活動登録者 H30・・・145人(H31.3現在) R1・・・148人(R2.3現在) R2・・・135人(R3.3現在) 	<p>(高齢者の活動の場)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆高齢者の豊富な経験や知識、技能を生かした地域での活躍の場づくりに一定の効果があった。 ◆老人クラブについては、箇所数及び会員数とも近年減少が続いている。 	<p>(高齢者の活動の場)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆老人クラブの魅力のPR等により、箇所数及び会員数の減少を防止する。 ◆広報等PRにより、介護支援ボランティア活動登録者の増加を図る。 ※コロナ禍により活動が行えておらず、新たな活動手法等の検討を進める。 	B	<p>(高齢者の活動の場)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆各種事業の実施により地域での活躍の場づくりに一定の効果があった。 	継続
子ども未来部	<ul style="list-style-type: none"> ◆ボランティア活動などを通じて、地域における子どもの活動の場を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ボランティア活動の場として、市内公立保育園でボランティアの受け入れを実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆コロナ禍により、参加者や園児等の安全確保が困難であったため、実施を見送った。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆コロナ禍でも安心安全に受け入れできる態勢の検討が必要 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆公立保育園ではボランティアを受け入れる態勢を整えていたが、コロナ禍によりボランティアの受け入れができなかった。 	継続
教育部 (学校教育課)	<ul style="list-style-type: none"> ◆各学校で学校安全ボランティアを組織してもらっており、祖父母の協力も得る。学校から自治会にも周知を行い、協力者を募る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆各学校で全保護者及び自治会に学校安全ボランティアの希望を募り組織を編成した。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆学校安全ボランティアの人材確保に努めながら、学校及び児童生徒の安全を推進した。今後、本市の推進事業でもある地域学校協働本部事業との連携が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆組織編成に当たって自治会や敬老会に協力を依頼し、ながら見守りなど地域で子どもの育成及び安全確保につなげていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆学校安全ボランティアによる見守りは少しずつ定着してきたが、さらに地域への啓発や関係部署との連携を図っていく必要がある。 	継続

② 社会福祉協議会

- ▶ 高齢者が地域の中においてボランティア活動などで活躍できる場づくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 地域の中で高齢者の知恵や力を出すことのできる機会づくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 子どもや若者が地域の中で活躍できる場づくりの支援の方法について検討します。

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係	◆地域住民助け合い事業を推進していくなかで住民の活躍の場を意識していく	◆ボランティア保険を提案し、安心した活動ができるよう支援している ◆助け合いにおいて、地域の高齢者同士の見守り等がなされている ◆子どもの支援をしたいと思っている市民に居場所への寄附や活動を紹介した	◆市民からの活動したい内容に合わせて地域の社会資源につないだり、想いを実現できるよう支援した	◆想いを持っている市民は多いので、実行に移せるようにコーディネートをしていきたい	B	◆住民の活躍の場づくりを意識した支援が行えている	継続
黒磯支所地域福祉係	◆地域住民助け合い事業を推進していくなかで住民の活躍の場を意識していく	◆コロナ禍の事業として、ひまわり・シトラスリボンプロジェクトを企画し、ボランティアの協力を得て事業を行った。	◆コロナ禍でも取り組みできる事業を行い、地域住民の活動の場を設けた。	◆地域住民が自発的に取り組みができるような支援方法を検討する。	B	◆地域住民の活動の場を設けた。	継続
塩原支所地域福祉係	◆地域の中で高齢者の知恵や力を出すことのできる機会づくりの支援方法について検討する。 ◆子どもや若者が地域の中で活躍できる場づくりの支援方法について検討する。	◆コロナ禍のため、地域における住民活動がほぼ休止となった。	◆コロナ禍という非常事態になり、住民活動が休止した。	◆コロナ禍という非常事態でも行うことができる住民活動の在り方を検討する。	C	◆実績不十分。	継続

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
ボランティアセンター	<ul style="list-style-type: none"> ◆行政や関係機関、地域などとのネットワーク強化 ◆子どもや若者が地域活動に参加できるように支援 ◆ボランティア活動の情報提供 ◆高齢者が地域活動、ボランティア活動に参加できるように支援 	<ul style="list-style-type: none"> ◆高校生グループとんぼの会の活動への協力 ◆ボランティアへのボランティア活動の情報提供 ◆コロナ禍の影響により対面する活動の場の提供は積極的には行わなかった。 	◆ボランティアの地域共生社会の理解促進	◆今後もボランティアの高齢化や若者の地域活動の推進や課題解決に努める。今後はZOOMを活用し活動の場を広げていく。	B	◆コロナ禍の影響により活動支援ができない状況だったため正確な評価はできない。	継続

③ 市民や関係団体

- ▶ 高齢者が地域の中で活躍できる場づくりについて検討します。
- ▶ 高齢者の知恵や力を出すことのできる機会づくりについて検討します。
- ▶ 子どもや若者が地域の中で活躍できる場づくりについて検討します。

所管	R2実績
地域支援係	<ul style="list-style-type: none"> ◆生きがいサロンや公民館活動において高齢者が主体となって活動している ◆老人クラブや高齢者同士の互助グループの活動にを運営・参加している ◆コロナの影響で集いの場や地域の行事が中止になり、活動の場が非常に少なかった
塩原支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域において、会合による活動が自粛となった。

令和2年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

基本目標 2 誰もが暮らしやすい生活環境づくり

施策の方向性 4 地域における見守り体制の充実

今後の取組 (1) 子どもの見守り活動の充実

① 行政

▶ スクールガードなどの見守り活動の充実を図ります。

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
教育部	<p>◆スクールガード（学校安全ボランティア）であることを周知するために、ベストを着用して活動に当たれるようにする。</p> <p>◆スクールガード（学校安全ボランティア）用のベストの必要枚数を把握し、充実を図る。</p>	◆各学校からの要望に応じて、ベストを配付した。	◆各学校の要望に応じて、スクールガード用のベストを補填することができた。現在配布しているベストの在庫が残りわずかになっている。	◆スクールガードの活動の充実を図るため、新しい従事者や摩耗等による不足分の更新について検討する。	B	◆ベストの着用によりスクールガードの認知度が上がり、効果的な見守り活動が行われている。	継続

② 社会福祉協議会

- ▶ 地域の中で子どもに対する見守り活動の体制づくりの支援の方法について検討します。

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係	◆地域の中で子どもに対する見守り活動の体制づくりの支援の方法について検討する	◆子どもの居場所を実施する中で子どもの状況把握を行い、学校とも連携がとれている。また登下校中の見守り時に気になる子どもがいた際の学校との連携にもつながった	◆地域内の見守り活動とスクールガード等の子どもの見守りの連携が必要	◆地域の中の見守りを高齢者だけでなく、子どもにも広げていく	B	◆登下校時だけでなく、居場所を活用した見守り・関係性づくりができた	継続
黒磯支所地域福祉係	◆地域の中で子どもに対する見守り活動の体制づくりの支援の方法について検討する	◆地域での見守り活動について状況の把握や支援を行った。	◆高齢者の見守りだけでなく、スクールガードの活動についても支援していく。	◆地域での見守り活動について、引続き状況の把握や支援を行う。	B	◆見守り活動について状況の把握や支援ができた。	継続
塩原支所地域福祉係	◆地域の中で子どもに対する見守り活動の体制づくりの支援の方法について検討する	◆実施できなかった。	◆地域内の子ども世帯の状況やニーズを把握する。	◆特に小中学校との連携。	C	◆実績なし。	継続

③ 市民や関係団体

- ▶ 地域の中でスクールガードなどを行います。
- ▶ 子どもが地域で安心して遊ぶことができるよう見守りをします。
- ▶ 積極的に子どもたちとあいさつを交わします。

所管	R2実績
地域支援係	◆コミュニティ・自治会においてスクールガード、子どもの見守り活動を実施している ◆コロナ禍で地域内の行事が中止となり、交流を図ることが難しかった
塩原支所地域福祉係	◆スクールガードの組織はないが、地域住民による声掛け、見守りが行われている。

令和2年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

- 基本目標 2 誰もが暮らしやすい生活環境づくり
 施策の方向性 4 地域における見守り体制の充実
 今後の取組 (2) 支援が必要な人への住民の見守り活動の充実
 ① 行政
 ▶ 総全地域での住民主体の見守り活動の実施を目指します。
 ▶ みるメールなどのICTツールを活用した見守りシステムの構築を検討します。

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部 (社会福祉課)	◆避難行動要支援者支援制度を推進し、全地域での住民主体の見守り活動の実施を目指す。	◆避難行動要支援者支援制度のマニュアルを変更し、自治会の状況に応じて段階的に制度に取り組めるようにした。 ◆地域の見守り活動を推進するため、「地域の見守り活動事例集」を作成した。 (協定済自治会数) 173自治会→174自治会	◆新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、地域の活動が停滞したため、未協定自治会の解消があまり進まなかった。 ◆他の事業との整合が必要。	◆未協定自治会の解消 ◆地域の見守り活動のネットワークの構築	B	◆状況に応じて実施方法の見直しをしながら制度を推進した。	継続

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部 (高齢福祉課)	<p>◆避難行動要支援者支援制度を推進し、全地域での住民主体の見守り活動の実施を目指す。</p> <p>◆ICTを活用した見守り事業の運用</p>	<p>◆公立公民館区に地域支え合い推進員の配置し、地域の困りごとなどの把握、解決に向けた話し合いを行いながら、見守り助け合う地域づくりに取り組んだ。</p> <p>◆見守り活動等を実施した自治会数 H30…73 R1 …84 R2 …111(R3.1月末)</p> <p>◆ICTを活用した検索アプリによる見守り事業の運用を4月から開始した。 ※民間企業が実施する検索アプリを利用する際、経費の一部を利用者に助成（みまもりあいステッカー支援事業）</p>	<p>◆見守り活動を実施する自治会の増加、ICTを活用した見守り事業の運用開始により、地域で見守り合う体制を拡充することができた。</p>	<p>◆地域における見守り体制を充実させるため、見守り活動等を実施する自治会や見守り事業への参加者を増やしていく。</p>	A	<p>◆見守り活動を実施する自治会数が増えたことで見守り活動を充実することができたため。（第7期高齢福祉計画値R2 90箇所）</p>	継続
子ども未来部	<p>◆住民主体の見守り活動の実施を目指す。</p>	<p>◆民生委員児童委員の会議等に参加し、情報提供、及び資料「子どもの権利副読本」を配布し提供方法の周知を行うとともに、支援が必要な児童の把握に努めた。</p> <p>◆民生委員児童委員向けの勉強会をにしなすケアネット主催の研修会に参加する形式で実施した。新型コロナウイルス感染防止対策でオンラインでの参加もできた。</p>	<p>◆会議、研修会等で繰り返し情報提供の呼び掛けを行い、併せて市広報等を通じて周知、情報発信を行うことで市民全体の関心が高まった。</p>	<p>◆地域での見守りの重要性について繰り返し周知していく必要がある。</p>	B	<p>◆地域の現状の把握に努めた。</p> <p>◆地域の児童に対する関心が高まっている。</p>	継続

② 社会福祉協議会

- ▶ 地域の中で支援が必要な人に対する見守り活動の体制づくりを支援します。

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係	◆地域住民助け合い事業の推進・強化	◆地域支え合い推進員の配置 H29…10公民館 H30…14公民館 R1 …15公民館 R2…14公民館 ◆見守り活動等を実施した自治会数 H29…55 H30…73 R1 …79 R2…111	◆見守り活動からの生活支援まで発展させる必要がある。取組実態を把握できていない地区もある	◆個別ケースから自治会へ必要性を投げかけていく視点を持つ。多様な場面で地域の人と関わり、実態を把握していく	B	◆見守り活動実施自治会数は着実に増えている	継続
黒磯支所地域福祉係	◆地域の中で支援が必要な人に対する見守り活動の体制づくりを支援する。	◆地域の話し合いの場や見守り報告会に参加し、心配な人の情報共有、支援について協議した。	◆地域の心配な方に対する情報共有・支援について協議した。	◆定期的に話し合いができる体制づくりを支援する。	B	◆心配な方に対する情報共有・支援をした。	継続
塩原支所地域福祉係	◆地域の中で支援が必要な人に対する見守り活動の体制づくりを支援する。	◆コロナ禍ではあったが、概ね多くの地域で見守りが出来ている。	◆コロナ禍での見守り活動の総括。	◆非常時における見守り活動の準備（シミュレーション）。	B	◆市民活動制限下でも一定の実績あり。	継続

③ 市民や関係団体

- ▶ 自分でできる範囲で地域の中で支援が必要な人に対する見守り活動をします。

所管	R2実績
地域支援係	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域住民助け合い事業の活動の中で無理のない範囲で見守りや声かけなどを行っている ◆高齢者への友愛訪問や子どもへの見守り、スクールガード等において見守りを行っている ◆コロナ禍で例年とおりの活動が難しくなった
塩原支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> ◆会合による話し合いは行われなかったが、これまで多くの地域で行われている地域住民助け合い事業を通して、コロナ禍でも自分たちでできる範囲で地域の中で心配な人に対する見守り活動をした。

令和2年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

- 基本目標 2 誰もが暮らしやすい生活環境づくり
 施策の方向性 4 地域における見守り体制の充実
 今後の取組 (3) 支援が必要な人の情報収集・情報活用の充実
 ① 行政
 ▶ 地域での情報の集め方、情報の共有と活用などのルールづくりをします。
 ▶ 見守り活動における個人情報の提供・活用ルールの検討を行います。

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部 (社会福祉課)	◆避難行動要支援者支援制度の周知徹底を図り、同意者名簿の配布と活用を推進する。	◆避難行動要支援者支援制度の推進を図り、個人情報提供に係る協定を締結の上、災害時の備えや日頃の見守りに活用できるよう同意者名簿を各自治会に提供した。	◆地域の見守りの対象として同意者名簿の活用が進んでいる。	◆避難行動要支援者制度について、一般市民への制度理解を深める必要がある。	B	◆避難行動要支援者制度について、市と自治会・民生委員との連携が取れつつあり、自治会内でも活用が進んでいる。	継続
保健福祉部 (高齢福祉課)	◆地域での防災のための情報の集め方、情報の共有と活用のためのルールづくりを実施する。	◆公立公民館区に地域支え合い推進員の配置し、地域の困りごとなどの把握、解決に向けた話し合いを行いながら、情報共有する体制づくりに取り組んだ。 ◆見守り活動等を実施した自治会数 H30…73 R1 …84 R2 …111(R3.1月末)	◆地域支え合い推進員が自治会等の見守り活動等に参加することで、地域の情報の把握や共有を図ることができた。	◆見守り活動に取り組む自治会を増やし、地域間の交流を活性化することで、情報収集や情報活用を充実させる。	A	◆見守り活動を実施する自治会数が増えたことで情報共有できる機会を充実することができたため。(第7期高齢福祉計画値R2 90箇所)	継続

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
子ども未来部	<p>◆地域での情報の集め方、情報の共有と活用などのルールづくりをします。</p> <p>◆見守り活動における個人情報提供・活用ルールの検討を行います。</p>	<p>◆民生委員児童委員の会議等に参加し、情報提供、及び資料「子どもの権利副読本」を配布し提供方法の周知を行うとともに、支援が必要な児童の把握に努めた。</p> <p>◆民生委員児童委員向けの勉強会をにしなすケアネット主催の研修会に参加する形式で実施した。新型コロナウイルス感染防止対策でオンラインでの参加もできた。</p>	<p>◆会議、研修会等で繰り返し情報提供の呼び掛けを行い、併せて市広報等を通じて周知、情報発信を行うことで市民全体の関心が高まった。</p>	<p>◆地域での見守りの重要性について繰り返し周知していく必要がある。</p>	B	<p>◆地域の現状の把握に努めた。</p> <p>◆地域の児童に対する関心が高まっている。</p>	継続

② 社会福祉協議会

- ▶ 地域での情報の集め方、情報の共有と活用などのルールづくりの支援の方法について検討します。

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係	◆支援が必要な人の情報収集・情報活用について検討する	◆地域内での見守り対象者と避難行動要支援者の刷り合わせを行った ◆民生委員や地域包括支援センターとの情報共有を意識した ◆地域ケア会議や協議体を行う中で市民や関係機関と情報共有を行った ◆Facebookを活用し、情報発信を行った	◆地域住民助け合い事業だけでなく、他機関・他事業との連携を意識し、情報共有や支援を行った	◆支援が必要な人に対して、地域全体で関わる姿勢が重要	B	◆他機関・他事業との連携を意識して効率的な情報共有ができています	継続
黒磯支所地域福祉係	◆地域での情報の集め方、情報の共有と活用などのルールづくりの支援の方法を検討する。	◆福祉マップを作成し、心配な人の情報を共有した。	◆マップ作成により、見守りを支援する人たちで情報共有し、支援につなげることができた。	◆より多くの地域でマップによる取組みができるように支援していく。	B	◆心配な人の情報を共有し、支援に活用した。	継続
塩原支所地域福祉係	◆地域での情報の集め方、情報の共有と活用などのルールづくりの支援方法について検討する。	◆自治会活動制限下のため、主に市、民生委員児童委員、包括、社協で支援が必要な人の情報を共有した。	◆コロナ禍という非常事態での情報収集のあり方と収集した情報の検証。	◆検証結果の反映方法。	C	◆実績不十分。	継続

③ 市民や関係団体

- ▶ 地域の中で情報を収集し、情報共有の仕方や活用方法などのルールづくりについて検討します。

所管	R2実績
地域支援係	<ul style="list-style-type: none"> ◆見守りマップの作成や班長等からの情報を基に見守りや支援が必要な方を把握し、地域内で情報共有をしている ◆見守りマップ等で把握した情報を基に助け合い活動を検討し実施している ◆避難行動要支援支援制度の情報も関係者で共有しながら、より精度の高い支え合い体制構築を進めている ◆個人情報保護の観点から見守り実施前に本人への意向確認、同意を得ている
塩原支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> ◆各地域の状況に応じて行われている見守り体制を尊重しており、多くの地域では、マップを作成しなくとも見守りが必要な人が把握されている。

令和2年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

- 基本目標 3 みんなで支え合う、意識づくり、人づくり、つながりづくり
 施策の方向性 1 お互いを理解し、尊重し合える環境づくり
 今後の取組 (1) 障害者への理解の促進
 ① 行政
 ▶ 障害者差別解消法の周知に努めます。
 ▶ 広報などを活用し、障害者施設での事業をPRします。
 ▶ 企業、地域住民への啓発活動を充実します。
 ▶ 市民を対象とした講演会を開催し、理解や関心を深めます。
 ▶ 地域における障害者の情報共有の方法を検討します。

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部	◆障害者差別解消法の周知に努める。 ◆広報などを活用し、障害者施設での事業をPR ◆企業、地域住民への啓発活動を充実する。 ◆市民を対象とした講演会を開催し、理解や関心を深める。 ◆地域における障害者の情報共有の方法を検討。	◆障害者差別解消推進用パンフレットを関係機関に配付 ◆市のポータルサイトで市内の障害者施設の紹介 ◆出前講座（差別解消講座）を実施 ◆広報やホームページにおけるヘルプマークやヘルプカードの周知啓発及び配布 ◆手話に対する理解及び普及を図るため、手話言語条例を制定	◆障害に対する住民理解の促進と、情報発信を継続しているが、普及には時間を要する。	◆障害者差別の根絶には、教育、医療、福祉、就労等の関係機関だけでなく、住民や事業者の意識を変えていく地道な活動を継続していく必要がある。	B	◆少しずつではあるが、障害者に対する差別の解消に向けた取り組みを行った。 ◆企業や地域住民への啓発活動を強化していく必要がある。	継続

② 社会福祉協議会

- ▶ 市民を対象とした講演会を開催し、理解や関心を深めます。
- ▶ 社協だよりやホームページなどに障害に関する情報を掲載し、地域住民への啓発活動を充実させます。
- ▶ 地域の中で障害者との交流会や居場所づくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 地域の中で障害者の情報共有を行う場づくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 地域の中で障害者への声かけなどの見守り活動の支援の方法について検討します。
- ▶ 地域にある障害者施設と地域住民との交流を推進します。

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域の中で障害者の情報共有を行う場づくりを支援していく。 ◆地域にある障害者施設と地域住民との交流を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆県内関係機関等に障がい啓発隊が出向き、講演を開催した。 ◆自治会等の集いの場に障害者施設職員等が出向き、施設製品の販売を通し、施設の広報及び交流を図った。 ・障がいについての情報共有を行う居場所（ケアラズカフェ）に参加し、地域からの声を拾ったり、情報を伝えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域において障害への理解を深められるような機会を設けることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆コロナ禍で活動が制限されたが、引き続き地域へ出向き、広く理解を深めていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆コロナ禍でもできることを地道に行うことができた。 	継続
黒磯支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> ◆障害者に対する理解や関心を深められるよう様々な方法で支援の方法について検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆高校生を対象とした、障害者との交流の場をマッチングした。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆若年層への障害者についての理解・関心を深めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域の中で障害者と交流できる機会を増やしていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆障害者についての理解・関心を深めた。 	継続
塩原支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> ◆市民を対象とした講演会を開催し、理解や関心を深める。 ◆地域の中で障害者への声かけなどの見守り活動の支援方法について検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆一般市民、特に、高齢者も障害者もほぼ活動休止。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆コロナ禍という非常事態における活動のあり方検討。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆まず、検討した結果を周知し当事者で意見交換する。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ◆実績不十分。 	継続

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
総務・経理係	<ul style="list-style-type: none"> ◆社協だよりの発行を年6回から4回とする。 ◆社協からの最新の情報をHPに掲載する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆コロナ禍で、社協だよりの4月20号と7月20号が全戸配布できなかったが、HPに加え、地域福祉課発信で社協のFacebookを開設し情報を発信行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆社協だよりが年6回から4回の発行となり、コロナ禍で全戸配布が出来なかったが、Facebookの開設により新しい情報発信の場ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆社協だよりにおいて、分野にとらわれず情報を掲載したが、障害福祉に関する情報が少ないので、担当者会議で検討しR3年度より共生社会のコーナーを掲載する。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ◆社協だよりの発行回数の減や、コロナ禍で全戸配布ができず紙面による情報の発信ができなかった。 	継続
生活支援係	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域住民や施設等に対して、事業の理解を深めるため、事業説明を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆コロナ禍において、地域との関わりが制限されるなか、障がいのある方を孤立させないために、支援を継続させることを重点に取組んできた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆感染対策を行い、支援を継続することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆このような状況下で、どのように地域とのつながりを作り、継続していくのか検討が必要である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆今後も支援を継続しながら、地域とのつながりについては検討していく。 	継続
福祉サービス支援係	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域の中で障害者との交流会や居場所づくりの支援の方法について検討する。あわせて、障害者の情報共有を行う場づくりの支援の方法について検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆今年度は、新型コロナウイルスの影響により、連絡会等の中止もありましたが、関係機関との連携を継続的にとることができ、障害者の情報共有を行うことができました。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆新型コロナウイルスの影響はあったが、専門職とおしの情報共有はできていた。しかし、その影響により、住民や地域を巻き込んでの支援方法の検討の不足はあると思われた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆新型コロナウイルス感染拡大防止を前提に、住民や地域の意識啓発、地域づくりを目的とした方法を検討していく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆支援方法の不足はあったが、地域資源につなぐ支援を行うことにより検討する方向性を得ることができた。 	継続
つくし	<ul style="list-style-type: none"> ◆つくしの所在地である西三島自治会との交流を継続する。 ◆西那須野ライオンズクラブとの交流を継続する。 ◆農園芸や木工のボランティアを随時募り、開かれた施設運営を心掛け地域との交流を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆新型コロナウイルス感染症対策で年間行事やイベントが中止となり、施設外での交流が図れなかった。 ◆西三島自治会長寿会では花植えの際につくしで栽培した花を買っていた。 ◆自粛する中でどのように活動し、交流していけばよいか課題が残る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆コロナウィルス感染症対策にて以前からつながりのある自治会やライオンズクラブとの交流ができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆コロナ禍においてどのように活動し、どのように交流するかが課題である。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域交流が図れなかった。 	継続

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
心の里	<ul style="list-style-type: none"> ◆公民館まつり等へ参加し、製品の販売を通して施設や障害者への理解と関心を深める。 ◆小学校行事や地域の交流会に参加し住民との交流を促進する。 ◆施設外就労により共生社会の理解と啓発を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆コロナの影響で地域との交流、スポーツ行事、公民館イベントや他事業所への販売等殆どのイベントが中止となった。利用者が参加できない分、スタッフが、地域の公民館、近隣の学校、保育園等へ出向き、製品の販路拡大や営業活動などを積極的に行うことを通して、心の里の理解促進や利用者工賃の確保に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆販路拡大や、積極的な販売活動により、多くの方に施設の認知度が広まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆コロナが終息した後は、製品販売やイベント参加など利用者と積極的に地域に出向き、利用者の見守り体制に繋げていきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆販路拡大により、施設のPRができ、認知度が高まった。 	継続
ふれあいの森	<ul style="list-style-type: none"> ◆施設と地域住民との交流の場を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆コロナにより利用者が行う外注作業がすくなくなつた際、法人内の事務作業を手伝うことにより他部署とのつながりができた。 ◆道の駅等で手工芸品のマスクを購入した人が施設に来所し利用者の活動を知ってもらうことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆道の駅や協力店での製品販売により施設へ関心を持ってもらうことができた。コロナ禍においても地域との交流ができるよう行事内容を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆関係機関や地元での活動を通して地域住民に施設や利用者の存在を知ってもらう。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆社協や協力店への普段からの働きかけにより新たなつながりができた。 	継続

③ 市民や関係団体

- ▶ 障害者と積極的に交流し相互理解を深めます。
- ▶ 障害者の情報共有の方法を検討します。
- ▶ 障害者が参加しやすい交流会や居場所づくりを検討し、できることから行います。
- ▶ 障害者への声かけなどの見守りをします。
- ▶ 障害者差別解消法についての理解や関心を深めます。

所管	R2実績
地域支援係	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の集いの場に障害者施設の商品を出張販売してもらい、施設紹介及び交流する機会を設け、理解や関心を深めた。 ・障がいについての情報共有を目的とした居場所（ケアラズカフェ）に参加した。
塩原支所地域福祉係	◆身体障害者福祉会塩原支部を中心に行われてきた、会員同士の親睦を深めるためのスポーツ教室、研修会や新年会など、活動を全面的に自粛した。
総務・経理係	◆社協だよりの発行回数の減やコロナ禍で社協だよりの全戸配布の中止などにより福祉関連の様々な情報が得られなかった。
つくし	◆一人暮らしの利用者が自宅アパートでお酒を飲み過ぎ大声で騒いでしまうことがあり、平日の日中はつくしへ通所して週末の金曜日の夕方から月曜日の朝まで短期入所施設を利用して見守りをしてきたが平日の夜にお酒を飲んでしまい大声で騒いでしまうことがあった。そのため近所の方より「何をされるか解らない」「怖くて注意ができない」とつくしに通報が何回かあった。
心の里	◆コロナ感染防止の為、4月から約1か月間、1日2回、様子の確認電話や、自宅に定期的に訪問して作業用資材を届けるとともに利用者の状態を確認する「在宅支援」を実施した。 施設として初めての在宅支援だったが、毎日の電話によって、ご家族との信頼関係の構築が図れたことや、利用者さん自身の電話利用のスキル向上など、良い結果にも繋がった。
ふれあいの森	<ul style="list-style-type: none"> ◆コロナにより利用者が行う外注作業が少なくなった際、法人内の事務作業を手伝うことにより他部署とのつながりができた。 ◆道の駅等で手工芸品のマスクを購入した人が施設に来所し、利用者の活動を知ってもらうことができた。

令和2年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

- 基本目標 3 みんなで支え合う、意識づくり、人づくり、つながりづくり
- 施策の方向性 1 お互いを理解し、尊重し合える環境づくり
- 今後の取組 (2) 高齢者・子育て世代などへの理解の促進
- ① 行政
- ▶ 子育て世代への理解を深めるため、企業への啓発活動を推進します。
 - ▶ 認知症サポーター養成講座を充実し、認知症に対する理解を促進します。

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部	◆認知症サポーター養成講座の開催	◆認知症サポーター養成者数 (延べ) H30…5,875人 R1 …6,636人 R2 …6,656人	◆認知症サポーター養成講座を開催し、認知症の人やその家族の気持ちを理解しようとするサポーターを増やすことができた。 ◆コロナ禍により開催数が減少した。	◆小中学校、企業や商工会、自治会への周知、オンラインによる開催を行い、認知症サポーター養成講座を開催し、一人でも多くのサポーターを増やしていく。	B	◆認知症サポーターの増加により、認知症の人と家族を地域で支える意識の啓発の一助となったため。	継続

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
子ども未来部	<p>◆子育て世代への理解を深めるための啓発活動の推進。</p>	<p>◆市広報に子育て等に関する特集記事（発達支援）の掲載で発達に特性のある子どもへの理解や取組を伝えただけ、10月からのリニューアルに伴い子育てに関する専用ページ「なすしおばらKIDS」コーナーがスタートし、ターゲットを明確にした広報を行った。</p> <p>◆民生委員児童委員向けの研修会を地域住民団体と合同勉強会という形で開催し、課題の共有を図った。</p> <p>◆とちぎテレビが実施している事業とからめ、本市子育て施策についてPRを行った（発達支援システム、子ども・子育て夢基金）。</p> <p>◆エフエム栃木番組内で放課後応援事業等を委託しているNPO法人の活動が取り上げられた。</p> <p>◆市内企業から提供を受けた赤ちゃん用ミルクを、必要な家庭に届ける支援をつないだ。</p>	<p>◆メディアを活用した子育てに関する課題・情報を伝えることができた。今後はさらに企業、民間団体に働きかけを行っていく必要がある。</p>	<p>◆広報、ホームページ等の活用について再検討。</p>	B	<p>◆各種メディアを活用したPRを行うことができ、地域や企業との関わりも得たことでおおむね達成とした。もう一步踏み込み、より多くの事業者と連携できるよう方策を考えたい。</p>	継続

② 社会福祉協議会

- ▶ 地域の中で高齢者や子育ての問題について検討する場づくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 地域の中で高齢者や子育て世代の人が参加できる行事の企画を支援します。
- ▶ 地域の中で世代間で交流する場づくりを支援します。

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係	<p>◆地域の中で高齢者や子育ての問題について検討する場づくりを支援する。</p> <p>◆地域の中で世代間で交流する場づくりを支援する。</p>	<p>◆地域ケア会議の中で「コロナ禍における子どもたちの支援について」をテーマに話し合った。また、障害のある当事者の兄弟姉妹（きょうだい）やヤングケアラーについて検討した。</p> <p>◆地域福祉活動補助金を活用してもらい、世代間でのつながり作りを支援した。</p>	<p>◆きょうだいやヤングケアラーの現状や支援のあり方について検討することができた。</p>	<p>◆検討を重ねていきながら方向性を見出していく。</p>	B	<p>◆子どもを取り巻く環境が多様化している中で実践に向けた検討をする土台を共有することができた。</p>	継続
黒磯支所地域福祉係	<p>◆子どもから高齢者までが一同に会して交流できる場づくりを支援する。</p> <p>◆高齢者や子供の問題について検討する場づくりの支援の方法を検討する。</p>	<p>◆公民館地区で高齢者などの地域課題についての話し合いを行った。</p>	<p>◆地域で高齢者などの地域課題について検討することができた。コロナ禍で地域の交流事業が実施できなかった。</p>	<p>◆定期的な話し合いの場を増やすための支援を行う。コロナ禍でも実施できる交流の場づくりについて検討する。</p>	B	<p>◆地域で課題を話し合う場を開催できた。</p>	継続
塩原支所地域福祉係	<p>◆地域の中で世代間で交流する場づくりを支援する。</p>	<p>◆コロナ禍での市民活動自粛の結果、世代間交流もほぼ全面休止となった。</p>	<p>◆コロナ禍での世代間交流の方法。</p>	<p>◆成功事例の収集。</p>	C	<p>◆実績なし。</p>	継続

③ 市民や関係団体

- ▶ 高齢者や子育ての問題について話し合える場づくりを検討し、できることから行います。
- ▶ 日頃からあいさつを交わしコミュニケーションを図ります。
- ▶ 生きがいサロンや老人クラブなどへの参加を呼びかけます。
- ▶ 世代間で交流する場づくりを検討し、できることから行います。

所管	R2実績
地域支援係	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域ケア会議や地域の居場所、話し合いの場に参加し、地域課題や地域で何ができるかを検討している。 ◆あいさつを交わしたり、さりげなく外から見守るなど困ったときに助け合える関係を築いている。 ◆生きがいサロンやいきいき百歳体操等の活動を広く周知し、積極的な参加を呼びかけ、顔の見える関係、ひきこもり予防、介護予防の機会として築いている。
塩原支所	<ul style="list-style-type: none"> ◆生きがいサロンも老人クラブも高齢者の活動は、全般的に自粛した。

令和2年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

基本目標 3 みんなで支え合う、意識づくり、人づくり、つながりづくり

施策の方向性 2 地域福祉活動の担い手の育成

今後の取組 (1) 地域活動・ボランティア活動への支援の充実

① 行政

- ▶ 自主防災組織や地域見守り活動への支援を充実します。
- ▶ ボランティアポイント制度の拡充や有償ボランティアの仕組みづくりの検討を進めます。

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
総務部	<ul style="list-style-type: none"> ◆自主防災組織育成支援補助金の交付 ◆自主防災組織の活動支援 	<ul style="list-style-type: none"> ◆自主防災組織の結成、事業運営、資機材等整備を支援するための補助金を交付した。 ◆自主防災組織が行う避難訓練や自治会避難マニュアル策定への協力を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆自主防災組織が結成されていない自治会がまだあり、結成されている組織においても、コロナ禍の影響で思うような活動が出来なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆組織の結成や活動に対する費用補助を継続する。 ◆自主防災活動が地域差なく、活発に行われるよう支援する。 	B	◆自主防災組織の活動に対する支援を実施することができた。	継続
保健福祉部 (社会福祉課)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ボランティアポイント制度の拡充や有償ボランティアの仕組みづくりの検討を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ボランティアセンターだよりの広報配布 ◆ボランティアポイント制度の拡充については未実施 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ボランティア活動を行うきっかけづくりとなっている。 ◆ボランティアポイント制度の拡充には至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆制度拡充に限らず、日常生活の延長としてボランティア活動が行えるよう、きっかけづくりや意識の醸成についても検討する。 	B	◆継続した事業実施がなされているため	継続

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部 (高齢福祉課)	<p>◆自主防災組織や地域見守り活動への支援を充実させる。</p> <p>◆ボランティアポイント制度の拡充や有償ボランティアの仕組みづくりの検討を進める。</p> <p>◆地域住民助け合い事業において、重層的な生活支援サービスが地域で提供される体制を整備する。</p> <p>◆介護支援ボランティアポイント事業を推進する。</p>	<p>◆介護支援ボランティア活動登録者 H30・・・145人 (H31.3現在) R1・・・148人 (R2.3現在) R2・・・135人 (R3.3現在)</p> <p>◆公立公民館区に地域支え合い推進員の配置し、地域の困りごとなどの把握、解決に向けた話し合いを行いながら、見守り助け合う地域づくり(担い手の育成)に取り組んだ。</p> <p>◆見守り活動等を実施した自治会数 H30・・・73 R1・・・84 R2・・・111(R3.1月末)</p> <p>◆介護予防サポーター養成者数 H30・・・69人 R1・・・69人 R2・・・79人</p>	<p>◆見守り活動を実施する自治会の増加により、地域で活動する担い手を拡充することができた。</p> <p>◆介護支援ボランティア活動については、活動が自粛されており、新たな活動方法の検討が必要。</p>	<p>◆地域における見守り体制を充実させるため、見守り活動等を実施する自治会を増やしていく。</p>	A	<p>◆見守り活動を実施する自治会数が増えたことで地域で活動する担い手を拡充することができたため。(第7期高齢福祉計画値R2 90箇所)</p>	継続

② 社会福祉協議会

- ▶ 社協だより、ボランティアセンター情報紙、ホームページなどを活用し、地域活動やボランティア活動をPRします。
- ▶ 地域活動やボランティア活動の充実を図ります。
- ▶ ボランティア同士での意見交換の場を設けます。
- ▶ 学生や大人を対象とした福祉教育の充実を図ります。
- ▶ ボランティアセンター運営体制の強化を検討します。
- ▶ ボランティアに関する講座などを開催します。
- ▶ ボランティア活動への経済的な支援を継続します。

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係	◆社協だよりやボランティアセンター情報誌、ホームページ等を活用し、活動のPRや充実及び発展を図る。	◆社協だよりやボランティア情報誌を発行し、情報を広く周知した。 ◆SNS (facebook) を活用し、迅速でタイムリーな情報の発信をした。 ◆オンラインを活用し、ボランティア同士の交流を図った。	◆新たな交流の機会（オンラインの活用）を検討、開催することができた。	◆オンラインを使える環境にない、SNSを使っていない人への対応を検討していく。	B	◆紙媒体とSNSの併用で広く市民に情報を発信することができた。	継続
黒磯支所地域福祉係	◆社協だより、ボランティアセンター情報誌、ホームページを活用し、地域活動やボランティア活動の充実を図る。	◆広報誌の中で、地域活動やボランティア活動の記事を掲載し、情報提供した。	◆コロナ禍でボランティアの交流会や講座が開催できなかった。	◆コロナ禍でも実施できるよう講座等の開催方法について検討する。	B	◆地域の活動状況について情報提供できた。	継続
塩原支所地域福祉係	◆社協だより、ボランティアセンター情報紙、ホームページなどを活用し、地域活動やボランティア活動をPRする。	◆社協だよりやボランティアセンター情報誌を活用して、情報提供を行った。	◆自治会を通じて配布したが、役立ったかどうか検証必要。	◆コロナ禍のような非常事態で行うべきボランティア活動のあり方検討。	C	◆情報誌による案内止まり。	継続

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
総務・経理係	<ul style="list-style-type: none"> ◆社協だよりの発行を年6回から4回とする。 ◆社協からの最新の情報をHPに掲載する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆コロナ禍で、社協だよりの4月20号と7月20号が全戸配布できなかったが、HPに加え、地域福祉課発信で社協のFacebookを開設し情報を発信行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆社協だよりが年6回から4回の発行となり、コロナ禍で全戸配布が出来なかったが、Facebookの開設により新しい情報発信の場ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆HPやFacebookを活用し、リアルタイムな情報を発信していく。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ◆社協だよりの発行回数の減や、コロナ禍で全戸配布ができず紙面による情報の発信ができなかった。 	継続
ボランティアセンター	<ul style="list-style-type: none"> ◆ボランティアセンター運営体制強化として社協本所に新にボランティアセンターを開設し、黒磯地区、西那須野地区（塩原地区含む）で業務を行う。 ◆地区別ボランティア交流会を開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆コロナ禍でも、感染拡大に注意し行ったボランティア活動を情報誌等によりPRを行った。 ◆マスク、ひまわり、シトラスリボンなど各種プロジェクトを地域と連携して行い活動の場を作った。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ボランティア活動の情報を発信することで、コロナ禍でもボランティア活動の気持ちを絶やさないうよう支援を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆引き続きボランティア情報の発信や様々なボランティア事業を行い、市内のボランティアの活性化を行っていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆ボランティア活動の情報発信をすることで、ボランティアの活性化につながった。 	継続

③ 市民や関係団体

- ▶ 自分の関心のあるボランティアに関する講座などに参加するよう努めます。
- ▶ 自分ができることや地域住民ができることについて検討します。
- ▶ 地域の行事や地域活動に関心を持ち、参加するよう努めます。

所管	R2実績
地域支援係	◆地域ケア会議や地域課題の検討会に参加し、自分ができることや地域住民ができることについて検討した。 ◆コミュニティで開催した研修会に参加し、教養を深めた。 ◆手作りマスクを通して、地域に必要としている方々へお渡しした。 ・オンラインを活用し、ボランティア同士の情報交換をした。 ・認知症当事者の会や配食サービスにボラン
塩原支所地域福祉係	◆ボランティアの具体的な活動は自粛され、ボランティアについての情報は、社協のボランティア情報誌を通じて案内された。
総務・経理係	◆社協だよりやHPを通じて地域活動やボランティアに関する情報を発信している。

令和2年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

- 基本目標 3 みんなで支え合う、意識づくり、人づくり、つながりづくり
 施策の方向性 2 地域福祉活動の担い手の育成
 今後の取組 (2) 地域活動・ボランティアの人材やリーダーの育成
 ① 行政
- ▶ 若者による地域づくりへの参画を推進します。
 - ▶ リーダーを養成するための市民講座を充実します。
 - ▶ 福祉事業の人材確保のための仕組みづくりを検討します。
 - ▶ ボランティアを体験する場を提供する仕組みを検討します。
 - ▶ ボランティア情報を提供する仕組みを充実します。

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
企画部	◆若者向け企画を実施	◆新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予定していた事業の実施を見合わせた。	◆地域で活躍する若者と意見を交換する機会を持つことが出来た。若者の社会活動への関心や意欲の喚起と、活動への参加の促進を図る。	◆「若者」をターゲットとした事業を企画し、人材やリーダーの育成につなげる。	D	◆代替を含め事業を実施することができなかった。	拡充
保健福祉部	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防サポーター養成講座を実施する。 ・若者による地域づくりへの参画を推進する。 ・福祉事業の人材確保のための仕組みづくりの提案を行う。 ・ボランティア体験する場を提供する仕組みを検討し、また、ボランティア情報を提供する仕組みを充実させる提案を行う。 	◆介護予防サポーター養成者数 H30・・・69人 R1・・・69人 R2・・・79人	◆介護予防サポーターを増やし、いきいき百歳体操などの通いの場において、住民主体による介護予防への取組を強化することができた。	◆介護予防サポーターを増やすことで、住民主体の通いの場の継続及び新規立ち上げを行い、地域全体で介護予防に取り組む地域を目指す。	B	◆介護サポーターの増員により、地域全体で介護予防に取り組む体制を拡充することができた。	継続

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
子ども未来部	◆福祉事業の人材確保のための仕組みづくりの検討。	◆子育てコンシェルジュが民間事業者の子育てサロンを巡回し、利用者や事業者の相談支援を行った。 ◆ファミリーサポートセンター、放課後児童クラブ等の人材育成について、コロナ禍の中安全に配慮しながら県実施の研修への参加や規模を縮小した研修への参加した。	◆新型コロナウイルス感染症対策に配慮した中で資質向上の実施することができた。	◆感染症対策に配慮しつつ新規の人材確保を行う。	B	◆予定していた研修等が開催できなかったが、安全を考慮しながら継続して実施することができたため。	継続
教育部	◆市民大学地域づくり学部にて、まちづくりに関心のある市民、これから地域で何らかの活動をしたいと考えている市民、または、すでに団体等で活躍している市民を対象とした講座を実施し、講座修了後に地域で自主的に活動できる人材育成を目指す。	◆生涯学習課で「地域学校協働活動推進員養成講座」を実施。第1回目を市民大学として実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、市民大学連携講座ではなく、推進員のみを対象に、教材を作成して送付する方法で実施。	◆地域学校協働活動推進員養成講座では、推進員の養成と地域で活動する意識づくりを行うことができた。コロナ禍により、例年実施している公民館や図書館主催の各種ボランティア養成講座が実施できなかった。	◆新たな人材発掘から、広報活動の工夫が必要である。コロナ禍における、各種講座の実施方法の検討が必要である。	B	地域学校協働活動推進員の養成につながったため。	継続

② 社会福祉協議会

- ▶ 若者による地域づくり座談会の開催に向けた支援の方法を検討します。
- ▶ リーダーを養成するための市民講座などを開催します。
- ▶ ボランティアを体験する場の提供を充実させます。

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係	◆地域づくりの研修等を開催し、地域活動における人材発掘や育成をする。	◆地域住民助け合い事業において地区ごとの研修会を実施した。 ◆地区ごとに地域のことについて話し合う場（協議体）を行い、支援した。	◆地域住民と自分たちが住む地域のことについて広く考える機会を設けることができた。	◆たくさんの地域ごとに話し合いを行ったり、声を拾いながら地域でできることを実践できるよう支援する。	B	◆コロナ禍に対応した研修会や話し合いの場を開催できた。	継続
黒磯支所地域福祉係	◆地域づくりの研修等を開催し、地域活動における人材発掘や育成をする。	◆コロナ禍の事業として、ひまわり・シトラスリボンプロジェクトを企画し、ボランティアの協力を得て事業を行った。	◆コロナ禍でも取り組める事業を行い、ボランティアの活動の場を設けた。	◆ボランティアが自発的に取り組みができるような支援方法を検討する。	B	◆ボランティアの活動の場を設けた。	継続
塩原支所地域福祉係	◆地域づくりの研修等を開催し、地域活動における人材発掘や育成をする。	◆コロナ禍のため、予定していた実績なし。	◆初期のボランティアの事例を紹介する機会の確保。	◆地域の教育の場である小中学校とボランティア教育について意見交換から始める。	C	◆実績なし。	継続
ボランティアセンター	◆中高校生ボランティアサマースクールの再開	◆コロナ禍の影響により各種場の提供や講座の開催はできなかった。 ◆数少なかったが、学校で福祉体験学習を行い福祉についての学びに協力。	◆若者から高齢者まで多世代の人が活動できる場所を充実させる。	◆地域において多世代の福祉教育の促進。	B	◆コロナ禍の影響により正確な評価はできない。	継続

③ 市民や関係団体

- ▶ 若者による地域づくり座談会へ参加するよう努めます。
- ▶ リーダーを養成するための市民講座などに参加するよう努めます。

所管	R2実績
地域支援係	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域のことにに関する研修会や話し合いの場に参加し、地域の現状を学ぶとともに地域づくりについて意見交換、情報共有をした。 ◆地域活動をする中で地域の担い手を育成するため、積極的に活動に入ってもらえるよう誘っている。 ◆市等が主催する講座に申込み、教養を深めている。
塩原支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> ◆ボランティアセンターが企画する講座の利用も含め、小中学校と話し合う予定だったが、自粛した。

令和2年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

基本目標 3 みんなで支え合う、意識づくり、人づくり、つながりづくり

施策の方向性 3 地域でのつながりづくり

今後の取組 (1) 地域での交流促進

① 行政

- ▶ 地域での交流を促進する制度や支援の在り方を検討します。
- ▶ 学校だよりや各学校のホームページなどを有効活用しながら情報発信し、地域との交流を促進します。
- ▶ 公民館を核として、学校との地域の連携・協働を強化する、「地域学校協働推進事業」を進めます。

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
企画部	◆市民活動センターの運営、イベントの実施	◆新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予定していた事業の実施を見合わせた。市民活動センター登録団体に対して、有効な情報を適時提供することを目的に、「みんなのメール」を開始した。 【登録団体(個人)数】 ・H30:81 ・R元:106 ・R2:116	◆市民活動団体の登録を促進した。 市民活動団体間の交流を支援する体制の充実を図る。	◆団体や人のネットワークづくりを促進する。	B	◆イベント情報や、助成金等支援制度の紹介を、適時、提供することができた。	継続

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部	<p>◆地域での交流を促進する制度や支援の在り方を検討する。</p> <p>◆生きがいサロン推進事業の実施</p> <p>◆元気アップデイサービス事業の実施</p> <p>◆シニアセンターを拠点とした居場所づくり</p> <p>◆新しい居場所づくりの検討</p>	<p>(居場所づくり)</p> <p>◆生きがいサロン運営支援</p> <p>H30・・・60箇所 R1・・・61箇所 R2・・・39箇所</p> <p>◆元気アップデイサービス</p> <p>H30・・・26コース R1・・・25コース R2・・・24コース</p> <p>◆老人クラブ運営支援</p> <p>H30・・・55箇所 R1・・・53箇所 R2・・・51箇所</p> <p>◆シニアセンター年間利用者数</p> <p>H30・・・20,282人 R1・・・15,536人 (R2.1未現在) R2・・・4,860人 (R3.1未現在)</p>	<p>◆生きがいサロン等の実施団体や参加者の増加を図る。</p> <p>◆老人クラブは箇所数等の減少が続いている。</p> <p>※R2はコロナ禍で活動が制限された。</p>	<p>◆生きがいサロン等の内容をPRし、実施団体や参加者の増加を目指す。</p> <p>◆老人クラブの魅力のPR等により、箇所数及び会員数の減少を防止する。</p> <p>※新たな生活様式により、十分な感染対策を行ったうえでの開催に向けて指導・支援を行う。</p>	B	<p>◆生きがいサロンや老人クラブの活動を支援することにより、地域での交流促進に一定の効果があったため。</p>	継続

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
教育部 (学校教育課)	<ul style="list-style-type: none"> ◆学校だよりや各学校のホームページなどを有効活用しながら情報発信し、地域との交流を促進する。 ◆モデル地区を3地区設定し、事業内容について協議を行う。 ◆地域学校協働活動推進員養成講座を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆学校だよりを回覧板や学校ホームページで地域へ公開し、学校の情報を積極的に発信した。 ◆学校ホームページを用いて、学校行事や日常の様子、コロナ対応ガイドライン等について、適宜情報を発信した。 ◆学校ホームページに動画データをアップし、掲載情報を前年度より増やした。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆学校から地域への情報発信により、情報の共有が図られ、地域交流の一助となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆現状を維持し、必要に応じて適宜情報を発信する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆学校と地域の情報共有につながり、地域交流の一助となっているため。 	継続
教育部 (生涯学習課)		<ul style="list-style-type: none"> ◆今年度実施8地区（黒磯北中学校区・三島中学校区・塩原小中学校区、日新中学校区・東那須野中学校区・西那須野中学校区、黒磯中学校区、厚崎中学校区）で本部事業を実施。 ◆次年度実施2地区（高林中学校区・帯根中学校区）で立ち上げ準備に向けての合同会議を実施。 ◆今年度実施地区・既実施地区の推進員を対象としたフォローアップ研修を実施。 ◆次年度実施地区から推薦された推進員を対象とした養成講座を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆推進員が地域と学校をつなぐ役割を果たしている。 ◆地域学校協働本部事業に対する市民の認知度が低い。 ◆コロナ禍で、学校と地域の交流の機会が減少した。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆事業の説明機会を設けることで周知と理解を図っていく。 ◆HPを活用し、市民へ活動状況を周知する。 ◆コロナ禍でも可能な交流について検討が必要。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆本部立ち上げがおおむね計画どおりに進んでいる。 ◆推進員が役割を自覚し、主体的に活動している。 	継続

② 社会福祉協議会

- ▶ 地域の中で気軽に誰でも参加できる行事の企画を支援します。
- ▶ 世代を超えて集まれる場づくりを支援します。
- ▶ 障害者などと地域住民が気軽に交流できる場づくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 地域住民と学校や福祉事業者などとの交流を推進します。

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係	◆世代を超えて気軽に集まれる場づくりを支援する。	◆地域福祉活動補助金を活用してもらい、居場所づくりを支援した。 ◆地域ケア会議等を通し、地域住民や福祉事業者とのつながりを支援した。	◆地域支え合い推進員が地域に出向き、コロナ禍でも居場所が継続できるよう支援した。	◆多世代が広く参加し、継続したいと思えるような企画、内容を検討、支援する。	B	◆居場所の重要性を理解しながら、地域への支援ができた。	継続
黒磯支所地域福祉係	◆地域の中で気軽に誰でも参加できる行事の企画を支援する。 ◆地域住民と学校や福祉事業者などとの交流を推進する。	◆コロナ禍の事業として、ひまわりプロジェクトを企画し、ボランティアの協力を得て事業を行った。	◆学校と交流するボランティアの活動の場を設けた。	◆地域での交流の場づくりの支援をする。	B	◆学校と交流するボランティアの活動の場を設けた。	継続
塩原支所地域福祉係	◆地域の中で気軽に誰でも参加できる行事の規格の支援をする。 ◆世代を超えて集まれる場づくりを支援する。	◆コロナ禍による市民活動自粛のため、地域福祉活動補助金を活用しての世代間交流事業も行われなかった。	◆コロナ禍という非常事態における地域交流の在り方検討。	◆人同士がつながっていることを意識できる方法の検討。	C	◆実績不十分。	継続

③ 市民や関係団体

- ▶ 気軽に誰でも参加できる行事を企画し、参加を呼びかけます。
- ▶ 世代を超えて集まることができる場づくりを検討し、世代間交流に努めます。
- ▶ 障害者などと地域住民が気軽に交流できる場づくりを検討し、できることから行います。
- ▶ 学校や福祉事業者などとの交流を図るよう努めます。

所管	R2実績
地域支援係	<ul style="list-style-type: none"> ◆皆さんが気軽に集える場を継続して開催した。 ◆当事者主体の居場所づくりを検討し開催した。 ◆運営推進会議等に書面開催であるが、地域住民と意見交換を行った。
塩原支所 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域での交流活動自体を自粛した。

令和2年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

- 基本目標 3 みんなで支え合う、意識づくり、人づくり、つながりづくり
 施策の方向性 3 地域でのつながりづくり
 今後の取組 (2) 自治会加入率の向上と自治会活動・コミュニティ活動の活性化
 ① 行政
 ▶ 自治会加入率向上のためのサポートを充実し、自治会活動の活性化につなげます。
 ▶ コミュニティ活動の活性化を促す施策の充実に努めます。

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
企画部	◆自治会未加入者に対して広報活動を実施し、自治会加入促進を行う。 ◆自治会との連携を強化して加入促進対策を行う。 ◆自治会活性化のための支援を行う。	◆自治会加入促進チラシの配布 ◆ホームページの充実 ◆自治会長研修の実施（自治会活性化事例集配付） ◆自治会活動ガイドライン作成 ・オンライン会議マニュアル作成【自治会加入率】 H30・・・63.5% R元・・・62.8% R2・・・61.5%	◆コロナ禍で自治会活動がしにくい状況となったが、自治会活動ガイドラインやオンライン会議マニュアル、非接触型体温計の配布等により安全安心に活動するための支援を行った。	◆自治会に関する条例の制定とあわせて、より効果的な具体的事業を検討・実施し、自治会活動の活性化及び自治会加入率の向上を実現する。	B	◆自治会加入率の向上には至っていないが、自治会活動への具体的な支援を行うことができた。	継続

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
教育部	<p>◆那須塩原市コミュニティ連絡協議会で、意見交換会、研修会を実施。</p> <p>◆那須塩原市コミュニティ連絡協議会加入団体に対し、コミュニティ活動補助金を交付。</p>	<p>◆コロナウイルス感染防止のため、予定していた研修などの事業は実施できなかった。</p> <p>○研修等 新型コロナウイルス感染防止のため中止</p> <p>○コミュニティ活動補助金交付</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営費補助金 12団体（コロナウイルス拡大防止のため、事業縮小により申請件数減少） ・自治総合センターコミュニティ助成事業補助金 2団体 	<p>◆コロナウイルス拡大防止のため、各コミュニティは事業を縮小せざるを得なかった。今後も引き続き感染症対策は必要になるが、新しい生活様式を踏まえたコミュニティ活動の検討などが必要。</p>	<p>◆補助金によるバックアップの継続は必要。また、新しい生活様式を踏まえた活動について、情報共有を促す工夫が必要。</p>	D	<p>コロナウイルス拡大防止のため、事業が実施できなかったため。</p>	継続

② 社会福祉協議会

- ▶ 地域の中で福祉課題に関して検討する場づくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 様々な世代が自治会運営に携わることができる仕組みづくりの支援の方法について検討します。

所管	R2事業実施計画	R2実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係	◆福祉課題に関して検討する場づくりの支援及び検討する。	◆地域住民助け合い事業において地区ごとの研修会を実施した。 ◆地区ごとに地域のことについて話し合う場（協議体）を行い、支援した。 ◆地域ケア会議の中で、障害者や困窮者、児童など幅広いテーマを取り上げ住民の地域課題を検討する場を設けた。	◆話し合う場の中で地域内の課題や今後できそうなことの見解が出た。	◆地域住民が多く、場や研修会等に参加してもらい、地域の活性化（地域力の向上）につなげる。	B	◆コロナ禍に対応した研修会や話し合いの場を開催し、地域課題やできそうなことを共有することができた。	継続
黒磯支所地域福祉係	◆福祉課題に関して検討する場づくりの支援の方法を検討する。 ◆様々な世代が自治会運営に携わることができる仕組みづくりの支援の方法を検討する。	◆公民館地区で地域課題についての話し合いを行った。	◆地域での話し合いの場を開催することができた。	◆定期的な話し合いの場を増やす。	B	◆地域での話し合いの場を開催できた。	継続
塩原支所地域福祉係	◆地域の中で福祉課題に関して検討する場づくりの支援方法について検討する。	◆コロナ禍による市民活動自粛のため、話し合いもできなかった。	◆コロナ禍でも行える福祉的課題を話し合う方法の検討。	◆福祉的課題を見落とさないための体制（受け皿）整備。	C	◆実績なし。	継続

③ 市民や関係団体

- ▶ 自治会未加入者へ積極的に声をかけ、地域のつながりを深めるよう努めます。
- ▶ 様々な世代が自治会運営に携わることができる仕組みづくりを検討します。

所管	R2実績
地域支援係	<ul style="list-style-type: none"> ◆社協の補助金事業を活用し、地域のつながりを深められるよう企画した。 ◆地区ごとの話し合いの場に参加し、自分たちの住んでいる自治会の状況や加入について共有をした。 ◆自治会通信を発行し、自治会の魅力や活動を広く周知した。
塩原支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> ◆自治会活動は自粛した。ただ、自治会未加入者も含めて、特に、困窮している様子の人については、市、自治会長、民生委員・児童委員に相談し、包括や社協（地域支え合い推進員）と地域のつながり情報を共有し、見守りを行った。